都名所圖會

龍青花

再刻

三

ル 4
4598
3

門 ル4
號 4598
卷 3

都名所圖會巻之三目錄

龍青
稲荷社
稲荷土師圖
通天橋 紅葉名所
東福寺
同権現
新熊野観音
夕敕之圖
三十三間堂 夜涼水
嵯峨源院
耳塚
修成院
小松谷正林寺
大佛殿
歌中山
洛東陶工圖
子安観音
清閑寺
三年坂
地主権現 桜名所
庚申堂
吳山正法寺
八坂法観寺
三の峰
萬壽寺
田中社
泉涌寺 泉涌水
拂園 奥陸翁古跡
妙安寺
後白川院四跡
寶生院
智積院
新日吉
大佛鉢屋敷
継信忠伝塔
豊國山
阿弥陀峯
音羽山清水寺
音羽瀧
西大谷
鳥辺山
高臺寺 楓萩
菊谷
伽羅観音
七観音

早稲田大學圖書藏
昭和 35. 1 28 受

安井観勝寺
下河原
花見圖
東大谷
吉水
瓜生石
佛光寺廟所
小波治田地
蹴上水
天智天皇陵
淀谷
本願寺田地
牛尾山
金毘羅権現
蛙ヶ池
双林寺
長樂寺
知恩教院
白川橋
植髪堂
神明社
日岡
四宮川原
若集滅道
蓮如上人塚
南禅寺 駒ヶ滝
午王地社
祇園社
西行菴
真葛原
一心院
沛猿堂
明智首塚
東岩倉
姥が懐
弦羽社
小町寺
西本願寺佛坊
永観堂
菊水
二軒茶屋
西行桜
園山安養寺
崇泰院
栗田天王社
長田首塚
將軍塚
沛廟野
花山
山科
東本願寺佛坊
懸田梅

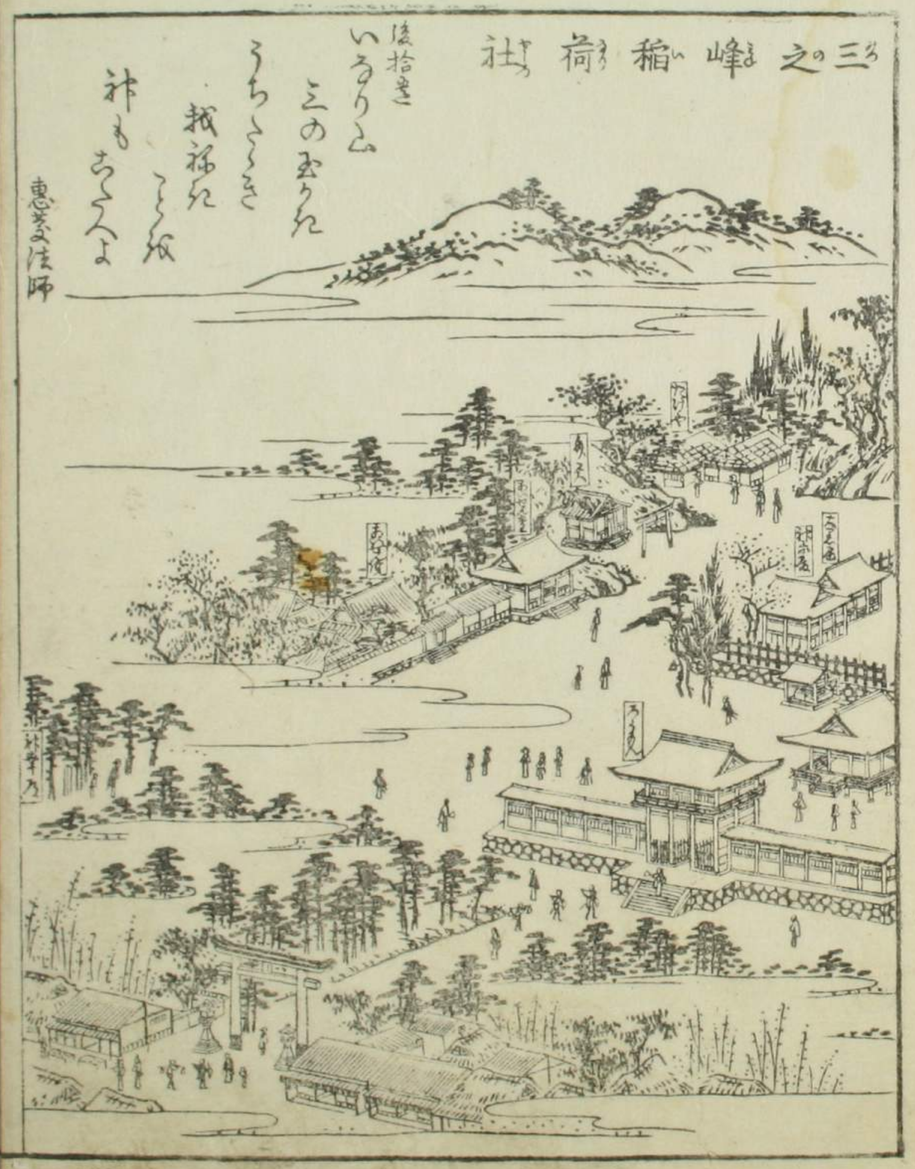
来迎松
住蓮山安楽寺
長谷金戒光明寺
吉田社 明星水 彩沢
大文字送火
白川瀧
八大龍王
高野川
大原里
音無川
寂光院
比叡山
元黒谷
鶯の池
藤谷万無寺
鎧掛松
夏万遍知恩寺
千菜寺
一条寺村 下り松
赤山社
八瀬里
勝林院
呂律川
汗搔
日吉山王
横川
若王寺
読合谷
紫宸石
銀閣寺
將軍地藏
北山佛坊
玉山社
脊競石
来迎院
後鳥羽院塔
朧清水
無動寺
飯室
光雲寺
橋門滝
真如堂 紅葉名所
月待山
白川石伐
詩仙堂
沛蔭社
竈風呂圖
融通寺
古知谷阿弥陀寺
江文社
近江八勝遠景圖

夫木
二月や
名ふ
初午の
ちゝ
ちゝ
いのりれ
ばなる
ゆゝ
ゆゝ
ゆゝ
光俊

三の之峰稲荷社

後拾遺
いろりゐ
之のゐろれ
うちゝゝき
我神れ
ゝゝ成
神もちゝよ

恵茂法師



三の峰稲荷の大明神はやしろは大和大隅佐渡の国ふあり注者人皇四十三代
元明帝はじめ宇和銅四年二月十一日午の日ふもとに出現しぬ本社貴一
宇賀御魂神貴二豊盛烏多貴三大市姫已上四大神此二神殿後
せうく五穀と稲を弘長二年に告ありて文永年中に傍なるより 社紙拾遺
又四中社の客人神大歳神は鶴と化して稲荷實を含んで来現しぬ
ひゆふ一切の魚を放ちぬ紙ふ亟喜八年故勝大改大臣藤原朝臣
時平三箇社を修造と又永享十年に社紙三の峯より今は地ふ移を
ぬり上の社は宇賀御魂伊弉諾伊弉冊尊と崇なる二月は初午条ふ
和銅年中二月初の午は日出現より恒例の祭事とする食稲は緑ふ
よりて土瓮黍粟等紙土産とをるより古は社本の枝ふをりて
帰りて家ふ收しとそ

初年をよめる

稲荷ふまゐりの枝紙ふきくわまつの人のかさしなりけり　弘仲朝臣

三の峰の御宮連歌は毎歳正月又日あり　古山の寺紙は昔は今の名国て
拾遺　小名流れ梵天ふ移して移川とふ
滝のあるくりてすまは稲荷ふ七日のあり〜まつとふりん　後人詠

稲荷の時幸の時

本木
いあり山枝さはれ松ふそそたくわとはる孫まりくり　周防内侍

例祭は四月上の卯の日ふ神輿五基九条は御旅所より東寺南は大門
を揖入て金堂はおに神輿紙ふ人産ふは神供と頭に戴て運び持ふく
赦じ僧俗はかりは山ふ出て法施し東寺は勢の傍ふとゝめ山ふの
衆僧は東西ふ列〜弦召は東の〜に整て其厳重なる粧ひ他り
あ〜ぬるなし〜是を東寺の神供といふ近年安永三甲午年より祭
礼の式再興ありて行列は首ふは勅裁綸旨弓楯の神具かぶりくを
神輿はあ後ふは社司のめん〜強るすて供奉〜唐鞍の神る三疋其
外大幣。榊鬚。菅蓋錦蓋多是のおく〜はく〜あり纏々猶々として
壮麗多々祭式あり

東福寺

東福寺北門
萬壽寺
三聖寺

惠日山東福寺は五山の第四なり大和大師一の構の地にあり當寺は開
聖一國師諱は辨圓後別藁科の人なり十歳にして天台宗を学び
十又九にして大納言藤原の髮を剃て東大寺の
戒壇にのぼり受戒せりあるとき三井を出て野州長楽寺にゆく
栄朔に随ひて別傳の道を求めその奥旨を極んとす欲し
人皇八十六代四条院の御宇嘉禎元年に入唐し宋の径山寺に
を師とせり新て六年を経て仁治二年の秋帰朝せり宣旨を
小宰相九条大相國光明峯寺殿下より園白 東福寺を賜ふ住職せり
弘安三年十月十六日七十九歳にして遷化を偈曰利生方便七十九年欲
知端的佛祖不傳遷化の日當山の竹木色白に変じ双樹の
枯るる九十四代花園院の御宇正和のころ諡を聖一國師と宣旨を
賜る凡國師の號は足利より始る当寺は南都東大興福の両
山門にぬ玄関といふ横額あり足利将軍義持公の筆なり

佛殿は本尊は釋迦佛法堂は潮音堂と號を額は云樂は筆なり
天井は播磨は初光兆殿司は筆なり山人大道和尚は書なり
諱は明兆字は吉山なり凡そ繪ゐ書ぬるなり紀ふ遑あらず龍
を画ぐ天ふらひ不動とのたまひ史生なりえるしるや或るは龍を画
いまゝ生なるの形をえんとを願くは佛神生身の形をえんとをもめんと
持念せるふ思園は水張上り生身は大龍目前に出現せり其形を
うつして天井に画兆殿司威後ふ画龍空に出く登天とも云傳ふ
其後將軍光頼卿を画今は蟠龍ありなり當寺は涅槃像は應永
十五年六月殿司又十七歳ふ一服出ゐあり本朝妙双乃
像なれど世ふ名高し其外當寺に圖畫多し一生画る繪異神威
を得て稲荷山のふより出る今繪異名とす
方丈は額は張即之の筆選佛場の額は徑山無準は筆本尊は
文殊菩薩聖觀音紙安置は當寺の鎮守は成就宮とす

五社を勅請光明寺は殿は建立なり東司の額は張即之の筆十二重は
七良明神は告ふよりて藤丞相道家公ふ仏建る園栢は古樹は開山
國師宋國なり勢なる厨は高梁も唐本なりてあり也異なり
常樂院は額は光明寺なる筆なる謚聖一國師は勅額は持明院は震
筆なり祖堂は中央は達磨百丈禪師臨濟禪師の像を安置は
後壇は光明寺殿下は新徑山無準禪師の像なり傳衣園なる
毘沙門天藥師觀音を安置は足開山の昭堂なり
通天橋は額は普明國師は筆橋下の溪を洗ふ硯とは山かとりに
楓多し秋のを人紅錦は多なり
十六日は開山忌なり俗は魚酒とを辭来は
五大堂は不動明王を安置は正月廿八日は火災除滅の札を安置は文字方足
萬壽寺は當山は小門三重なるの内なり昔は宗坊門なり五山乃
別寺なり　三重なる愛染堂

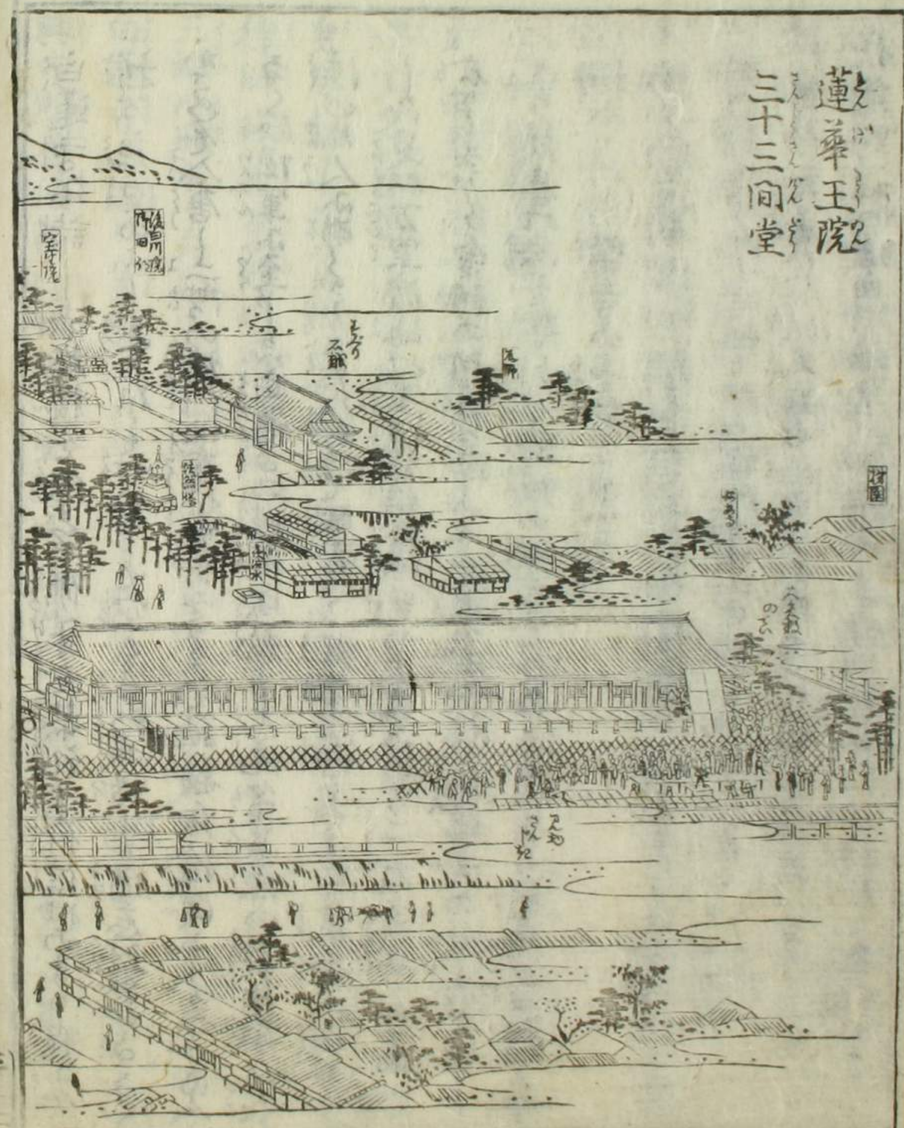
泉涌寺

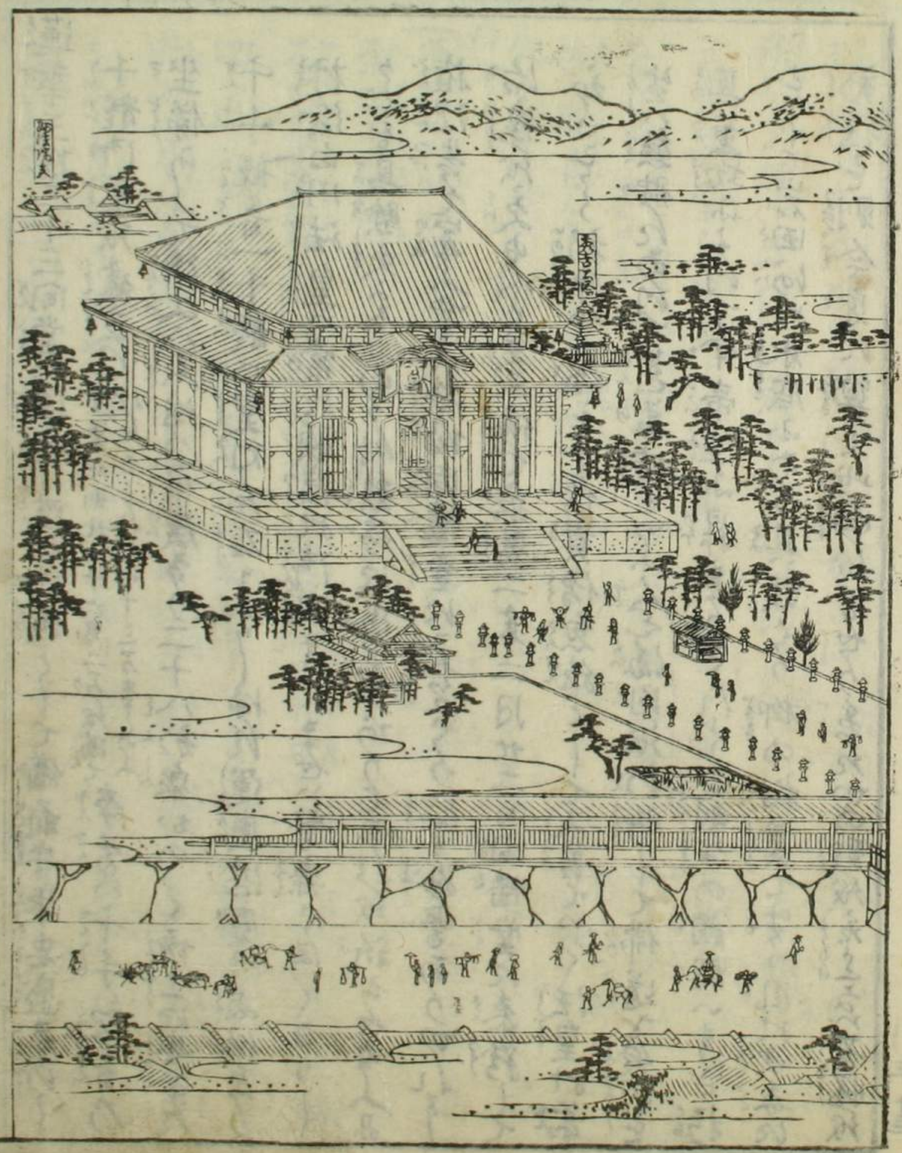
東山泉涌寺は大和大師一の搭れ東にあり當寺の初め弘法大師れ開
基なり其後文徳帝れ御宇齊衡三年ふたたび大臣緒嗣公再建あり
て天台宗となし仁遊寺と號を此ふ仁人おびしゆうり中興の
開山は後苅法師號は拭禅それより改宗天台真言禅律れ四宗後
為学と當ふの麓ふ霊泉涌出しそれを號を泉涌寺と改む
抑後苅法師は肥後國飽田郡の人なり仁安元年八月誕生四歳
天台沈色なるの孫曉ゞ弟子となり十八歳にて落髪し十九歳にて
右寺府れ紀者なるなれ具足戒をうけ三十三歳にて律学あり後鳥羽
なる宋國にまゝり四十六歳にして嘉定四年二月廿八日帰朝せり
建保六年に和州の刺史中原信房ゞ崇敬ふよりて我が地泉涌寺
を寄附せり支くり當寺ふ住職して後堀川院の御宇嘉祿三年
閏三月八日六十二歳にて遷化せり
天子れ官寺とるゝるは八十六代四條院を權輿とせり此帝隆御の附

我禅々々と言う後苏我禅和尚再生して天子の位に昇り四除後と
出誕しゆゑに人人の爰に乙人くるとぞ思ふ故に未代に帝當山
葬て奉る後は前帝神主殿の前にあり
佛殿の本尊は弥勒釋迦阿弥陀の三尊を安置し東に向て額い
張即之の筆なり
舎利殿の本尊は佛牙の舎利なり二重の金塔に安置し此佛
牙は由来と云ふ佛涅槃に入の時阿羅刹足疾鬼ひそかに窃しく
佛牙を掠奪らしに韋駄天後伏をくりかへしくめ益夜に紛く
身を殺し殺々殺して佛滅後五百余年を経て大唐に白蓮と云道宣
律師戒香薫修し威徳冥感あり韋駄天のこゝろを感し
三帰八戒をうけて其報恩に此佛牙を授さづけ奉る人間に傳り
白蓮寺に納め金剛の寶函に秘し初めて日本に渡るの事は當山中
興の開基後苏法師は未帰渡海我師は宋國に渡り美濃と慕い

白蓮寺に詣し赤栴檀を供ぜて佛牙を恭礼し作信はあるの霊
利益顕現のよし述べれども叶ぎして空く本邦に帰しが猶志を捨やしるく
かさねて入唐し二階の楼門三重の塔婆をまて袖袖紙塗涙ふうくるゆへ
ゆくに原軍に至りしに白蓮寺の経蔵成就し大元留基源の志紙感し其
徳の凡人にあらざる事を知て酬恩して来賓に仮をべきよし元命一回うり
しに是は万里渡海の本懐にあり二度来朝乃素願
をうしなひ舎利の利益をうしなふ述べれば仏牙の付属をゆう
々り教喜は涙をたゝえて具に述べれば仏牙の付属をゆう
朝ふうし當寺の本師と崇まり
観音堂は本尊聖観音は玄宗皇帝楊貴妃に別をのして追善乃こゝ
妃の願をうしして彫りの人補陀落山の額も此帝は筆之 洛陽紙貴 世の長之
新熊野社は後白川法皇は佛願あして紀州熊野三所権現を勧請せり

蓮華王院
三十三間堂





大佛殿

蓮華王院三十三間堂は後白川院の御願にして備前守平忠盛奉行し
千體御堂なり建立は堂東向南北六十六尺二寸なり備て奉安の千手観音乃
坐像なり御丈八尺佛師康慶なり二十八部衆おのゝ壇上に安置
千手観音一千體は堂内左右に安置運慶湛慶其他なり
柿葺白川法皇は常に頭痛し御悩平癒せは醫療を施くなりし
なりも其験更なるあり故に御幸ありて祈らせ給へ
権現告て宣へるは法皇因幡堂に天竺より渡る如醫あり此人
治療なる事疾と是を傷て永暦二年二月廿二日因幡堂に参詣して
祈ること七日満願の夜貴僧忽然として告ていはく法皇は前
生は鎮西にありて某坊と云人なり法皇は紀氏頭中将
其薫功ふかくして今帝位に昇給へり前生の髑髏いまなを持
て岩田河の水底にあり其頭より柳の樹貫て生ず風吹毎に
動揺す則今身に響て此悩なり急ぎ求て供養せよ若悩

絶ぬべしと告水底に沈て法皇は頃ありて西と思て夏堂より
所を尋ぬるに河底より髑髏は紀氏頭中将
三十三間堂を建立して蓮華王院と号さかの柳の樹は堂の梁と
なす已上平等寺縁起の意又或説に鳥羽上皇得長寿院を御造営あり千
体の観音を安置し後改て蓮華王院と號とも云
佛の本体は摩訶堂前に夜泣泉あり傳に沈あり其のこと云
燕子の花咲て沈を濃むるさたの通沈の画小麗しく京師の名所
京店に宴設して終日遊賞と嵯峨寺の住境なり
大悲救の霊験は新熱地観音と別当梅坊村御と好く八坂の青塚は的
場に通人帰さる當る此後堂に体射初しく来る連年法候の京長安
射御れ参詣の人當所より通矢の検證なて其一を蒙ることの如く金銭は麻
を後を尾別なりは是動なりは八千筋を通し貞享三年四月廿七日紀州和佐
堂は帝徳矢一万二千又十三通矢八千百三十三筋よりて一を得

新日吉社ハ後白川院ノ御勧請ナリ舊地ハ遠ク南方ニ在リ重ネテ日吉坂ノ
今ノ所ニ遷シ奉ル應仁ノ乱ニ破壞ヲ其後如法院尭然法親王再
建シ毎年例祭ハ毎年四月廿九日近ク六月九日後ハ如法院宮御所ノ神輿
再ビ八月十四日ニ行ハルヽ

智積院ハ宗旨真言新義ナリ本尊ハ不動明王興教大師ノ作ニ開ク
正憲法印當寺ハ豊臣秀吉公ノ棄君早世ノ祥雲寺ヲ草創ス
紀州根来寺滅ヲ後ノ鉄砲ノ断絶ヲ新義ノ後ヲ数ク
御當家ニ歎願ヲ以テ祥雲寺ヲ編テ智積院ト號シ新義派ノ学寺ヲ
養源院ハ宗旨天台ナリ本尊ハ阿弥陀佛惠心ノ作當院ハ淀井殿ノ
長政ノ草創ナリ開山ハ盛伯法印ナリ
修成院ノ本尊ハ役ノ大師ノ像ニ歓喜天ヲ安ス
寶性院ハ本尊ハ毘沙門天ナリ後白川法皇ノ宸筆ノ額安置ス
如安寺ハ蓮華王院南ノ門ノ西北ノ所ニ在リ虚無僧ノ本寺ナリ
西國三十三所ノ札所ニ達磨普化ノ祖師ヲ祭ル

樹園ハ妙安寺ノ南ニアリ松永貞徳翁ノ墓アリ
貞徳家集
大和大仏ノ西ノ大佛殿ノ南ニ地蔵ヲ建テ樹雪と名付ケ花紙ヲ
寒ケ雪ノ夜捻ル紙子昂ヲ立シ法華経紙様ノ千枚ヲ千枚ヲ
八千藏ヲ寄ル人報恩義ヲ造リ納メ陰囚陣ノ戸ニ聖徳太子
達磨大師ノ御影人九貫文定家紫式部ノ肖像ヲ掛シ如法院
二品法親王尭然授ケ給セシ御紙四ツ折ノ戸ヨリ出テ吟花扉ヲ
芦ノ九反ヲ植ル人ヤ夏ヒ中ノ八日ヲ過ル廿日ノ東光院殿玖山公泰勝院
玄旨法華ノ法味ノ舎ニ入ル
貞徳翁童名勝熊ト云シ
孟津ノ作ハ美字作ル
作者成歌ハ作ル源氏ノ
捌ハ作ル
花ハ狂道分ヲ人ハ行ク
去ハ入ルヒヲ人ハ行ク
書ヲ人ハ行ク糸野ノ
九條殿下
勝熊
玄旨法華

大佛殿方廣寺は後陽成院御宇天正六年豊臣秀吉公御建立也
本尊は盧舎那佛の坐像御丈六丈佛殿を西向みして東西九
七間南北は四十五間あり樓門は金剛力士の大像紙面長一丈四尺
あり門の内は高麗大あり金色みして長七尺あれは豊臣のやしろ
廻廊は南小百北百東西百間あり堂前は達るの燈籠あり列國
諸侯の名紙刻む佛殿の巻石又正面石垣の大石は國々生所の名載い
諸侯の故所等あり廻廊の外は楊弓掛茶屋へて楼とり
慶長七年十二月四日は佛殿回禄をは十五年右大臣秀頼公
おしぐく再営ある寛文二年本尊銅像を改て木像とし
左内秀吉公は石塔造い佛殿は南にあり豊國崩まて後られを営し
とて塔おれ石燈籠は慶長十年九月とあり
撞鐘堂は南廻廊は外にあり四間四方みして柱の数は十二本あり鐘
の高さ壱丈四尺指ありい九尺二寸厚さ壱尺

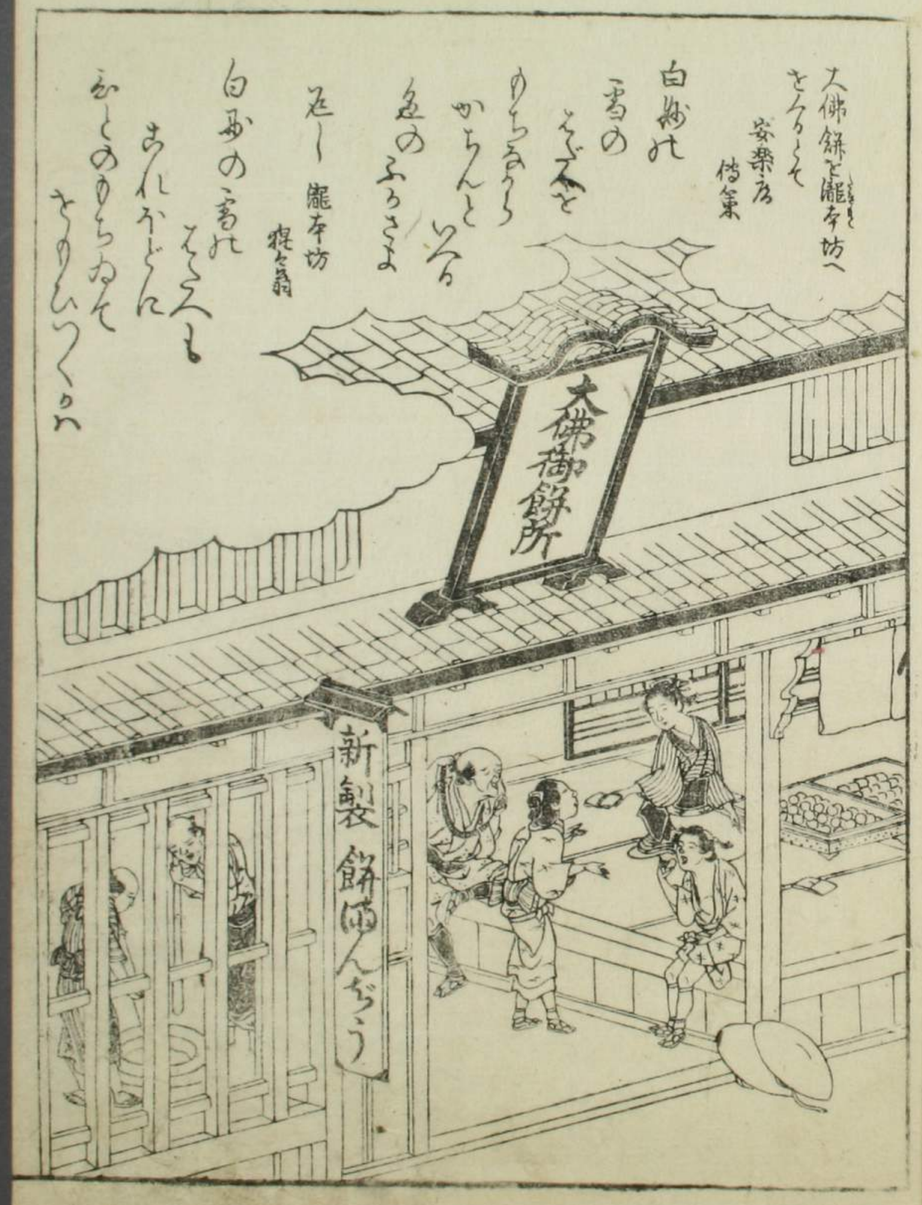
洛東大佛餅の盛觴の則
方廣寺大佛殿建立の時
ようり山絶景の美名
其味義のて前代落花
糸芳して陸放翁炙餅
東坡の湯餅ふも、おくざる
名品と唐風化の類揉肱
正水れ者みて代々ちに伝
して遠近ふ其名るし

大佛餅を龍女坊へ
さしうらして
安楽庵
侍象

白餅れ
雪の
そぐ〳〵と
ゆちふる〳〵
かちんと
いる
色のふるさよ

花〳〵 龍女坊
寝々翁

白雪の雪れ
そそ〳〵も
あれかぐん
ふしのゆちかて
さりしつくり



耳塚ハ二王門の前にあり文禄之年朝鮮征伐の時小西摂津守が為肥後ち
を大将として数萬の軍兵を討ち首を日本へ送りたんせ
斬獲して送りし所を埋耳塚と号す
平相國清盛公六波羅の館い今ハ大佛殿ハ地形中央にして凡五条
南ハ七条限り大和大路東門おゝ路平正盛忠盛之代の地なり
清盛公小堂ていい境地廣大にして殿舎ハ諸国の名勝を模
者本堂聚り南ハ方に大きなる池あり傍に水屋を造りちゝ池屋し
つゝ凡亭宅ハ数百七拾余宇ハ毋ろんべつ内廂重盛公ハ居宅小松
殿ハ二十余町ハ間殿宇建續々ろ具外家臣着属ハ役所五千二百余
宇ありしかど平家滅亡の後もし貧ありて小隙春時ハ時房等ちゝ
政道ハ役約の正慶二年五月千種中納言忠顕赤松良忠大軍ハ
六波羅ハ役攻る小隙時益仲時後伏見上皇新帝を供奉しく
関東へ逃遯るし時六波羅の館断絶に

小松谷正林寺ハ大佛殿の東ハにあり宗旨ハ浄土開基ハ惠空上人なり
本堂ハ殿舍造りにして九條殿くりの御書院と我と壇上とハ多宝大師
の像紙安亜弥陀の南の方に阿弥陀堂あり樓門の額ハ九條関白尚實公の
御筆なり明和年中にくる所なり此地むかし月輪禅定殿實宗の御所な
小松殿と云法然上人此殿の御堂に扣て毎々くろと黒谷傳記あり
子孫なる小松のそと紙すきなりて五尊あり仏も通へきなり　惠空上人
此所なり西人家の北の方に谷あり是を小松谷と云小松内大臣重盛公
の山荘にして燈籠堂の地なり　妻ハ盛衰記あり
三嶋明神のやしろハ馬町北側にあり當所の氏神にして產子ハ一代
鱗を禁ぜらるゝ
徳信忠信の石塔ハ馬町北側氏家のうしろにあり石の大塔二基銘
曰永仁三年二月二十日願主法西とあり一基ハ銘なし
阿弥陀堂ハ豊國の後れにあり慶長三年豊臣秀吉公ゝ父母の葬なり

清閑寺

清閑寺まいふ松谷の良あして佐伯公行れ建立すり本尊へ千ふ観ぜるの立像菅神の御化すり

高倉院の陵當寺ふあり

治承五年四月十四日新院崩御清閑寺ふ葬ふ

新古今

ふ人しの恋の御書紙ふ人の御ふ書て焼て

小督れ墓へ陵のたのかくにあり高倉院の御寵愛を蒙り橘町

中納言の女すり　妻のまゑ初位盛義記あり

歌中ふ清閑寺の真燕僧都ふ人の間をふ

ふ人をふねるふ人信るあるなれ門外よりずずそもり

愛ふ地ふり者れどおいひのごき候すて淵へのの乃へ何ぞ宮れい女

乃ふ人ふまふ人ふのふすてはふこの乃さいうぞきる今

とひ捨て捨て淵へとふ矢る女へ化人ふ信るあ具ふ淵ふとおれ中ふふ

音羽山清水寺
十三重塔
南蔵

新勅撰
ちはやふる
神代もきかず
たつた川
からくれなゐに
水くくるとは
在原業平朝臣
推中納言俊忠
成就院
奥坊
西門
三重塔
四社堂
三十三間堂
地蔵堂
観音堂
六坊

音羽山清水寺の本尊十一面千手千眼観世音菩薩脇士八毘沙門天
地蔵菩薩なり抑當寺は東国坂東小倉寺より延鶴
宝亀九年の夏昊爰に感ずるあるあて本陸川の辺りに
一の流に金色の光あり源に近て直に空る流の渕に像とゝまれば
翁ふたゝび彦に白衣を着せる老翁あり延鶴に彦に入て御身い
いかなる人ぞ翁れ曰吾名を問ふ廚に地に住るものは院に二百巣に夜ごと
常に千手真言を誦人我貴僧を待ちて久し東にいんとゆりて
志あれば御身志ざしくさに従へ我は昊天大悲観世像を彫り
精舎を建て願あり若生くうりを忘れ御身我よりて此称ひを成
就しめんと延鶴を空ると翁れ告われを辞ぞるあり翁の公
まうせある大いに驚て翁は東に向て菴を出ると夫より延鶴は
所に住めり或時に斧の柄れ折ふそかの翁の履を拾ひ延鶴はりてく
さてはかの翁は大悲の應現まし〳〵くるよとあり〳〵よく大悲乃

尊像を安置せんと称ひみるに〳〵たゝとして手用を逆りに
延暦十七年に將軍坂上田村丸妻婦のうめ小麻を猟して弓羽に
ふるけ入のの茶菴ふもれり延鶴田村丸を迎て翁のうめせしる所
告る田村丸唱仰のそひ仮るし屋延鶴の相ぬ仮るに神仏れめし
是即大士の化現る〳〵と信心つるまし家に帰て妻女ふ〳〵
妻れ曰つの病を治せん〳〵と多くれ数せ仮るに罷て〳〵りてぬ〳〵
屋し真敬ふ仮るせて大悲れ尊像仮安置し〳〵ぶいりてぶり乃初
益るく〳〵と夫勝心をありせて願るる仮建て延鶴に寄附せんる仮
約をつひ敬〳〵り掃〳〵し霊本仮ひて願れて像仮仮〳〵んる仮新人延鶴
其夜夜中に十一人の僧来く大悲の像仮仮る長八寸十一面四十臂九千手
観音を造り終て十一人の工僧行方を知仮夜変えてゝるに赫奕る尊
容現し〳〵のひて目前ふあり當寺本尊を迎えに来り佛敬を建んるに此地
嶮岨みて人地もるるけをいぐ〳〵ん憂りに其夜ぬくれ麻きるん

屋をつくりて安置せり[illegible]八佛殿を造りて大悲観音像を安置せり[illegible]
脇士地藏毘沙門天は延鈍法師の作なり田村丸延暦二十年に詔して
うけて東夷征罰の時此寺を[illegible]ふ初りしとぞ観世音地藏毘沙門天の像
戦場に現じ給ひてたゞくく延治しの人日丹口年に田村丸右近衛府
は宣旨を蒙りて堂塔を建立し勅願所となし又大同二年坂上
を[illegible]して仏菩薩を[illegible]観音寺と改て清水寺と號せり
奥之院の本尊は千手観音の立像なり山地は延鈍法師草庵
の跡なりとぞ
阿弥陀堂を龍山寺と號し本尊は阿弥陀佛の坐像なり安置文治
四年五月十五日法然上人渉山寺にて不断常行念佛を興隆しの人
今ふ返轉るし朝倉堂は鎌倉前の國司朝倉彈正真景是を建立
田村堂は田村將軍鈴鹿権現行叡延鈍等の像を安置
泉水は中門の西にあり霊泉にして地中より涌出る事寒暑に絶ず

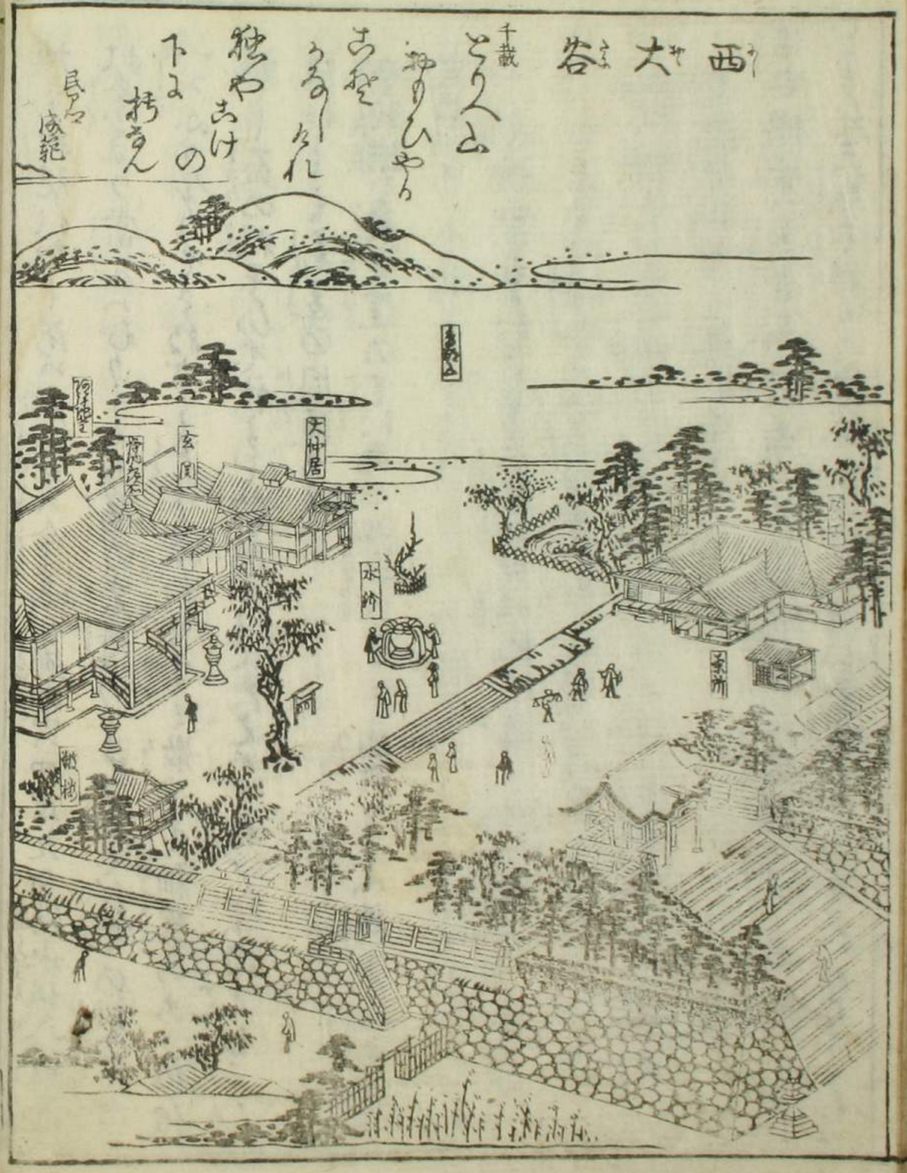
地を掘れども枯ず渇は大己貴命より例祭は四月九日清水坂八坂御
社祭は當山にむかしより榊の名所にして是も泉水の比は花
一入ふかしとぞ[illegible]れど雪く散つて瓢客の袂を
動し盃の数をして秋よりは詩をうたひ杯くふ組入むとび
はけしも是の風流なり
音羽瀧は奥之院の下にあり渉口三尺ばかり西のそば流れ四季增減
減れし
音羽山さやらに見そる白雪成明ぬと告る春の鶯　高倉院
みなもとに清水山の渉は世は仏をまたたのふさるなり　為盛
瓜形観音は悪七兵衛景清作なるも倩の房安なり
景清守本尊なるも倩の房安なり
子安観音は車舎馬止の南ふあり光明皇后孝嫌帝を春産しの人
[illegible]天照太神より授りの人一寸八歩の観音を今かそれ絵図ふこもる

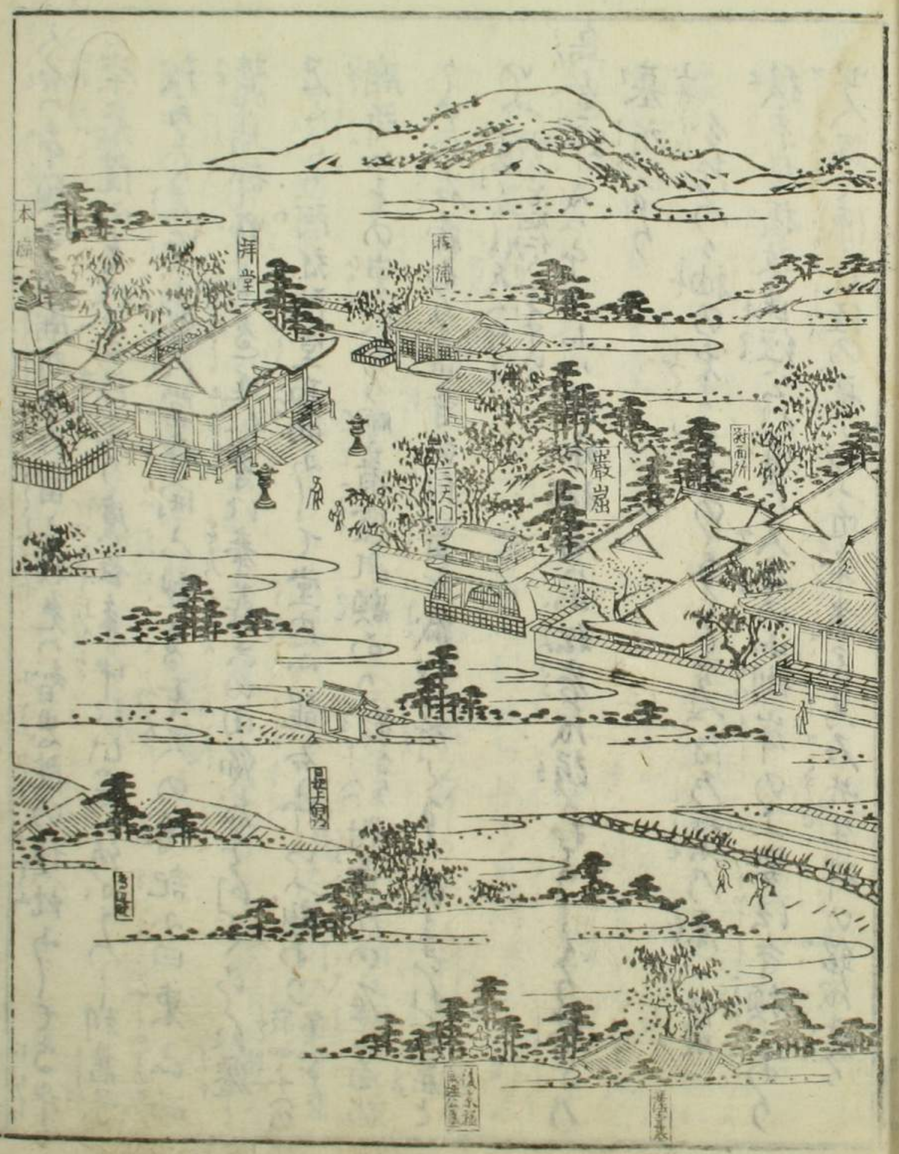
西大谷

千載

とりべ山
ゆりひやう
あをゝ
うるのゝれ
独やしけ
下ゑ
の
打ゑん

長戸の成能





大谷は本願寺の廟所なり當山初祖は智恩院の境地なりしを中興
崇泰院ふそれ也ふるき所なり慶長年中に山こゝに移ふつゝ初舊号
祇園と大谷と称し當寺開山親鸞聖人の傳記に曰東山西
麓鳥部野南邊延仁寺に奉葬ありしに由緒ありしかくて遷
又こゝに阿弥陀堂西面して堂内に龍谷山と額あり寂如上人の筆なり
廟所はその東にあり明着堂は額あり聖人の對面所の庭上南の
こゝに石塔あり當寺の什寶を藏むる所とす俗に法然窟と
いふ 細川忠興延仁寺を建る 成ハ文ハ小ハ清水坂南ハ小松谷祇園ハ
鳥邊野

墓所なり

玉華堂

名ありつゝ袖の京の名殘のくるしき乃花紫乃露 後成

後京極摂政良經公の墓ハ大谷の小側岸の上要法寺領ふあり
世人誤て源義經の墓ハ大谷近年書家爲石先生碑の銘ふ建る

靈鷲山正法寺ハ往昔傳教大師開基ありて山門の別院なり中興
國阿上人住ありて宗旨を時宗と改む本堂を釋迦佛祝安
置ふ阿弥陀堂の本尊ハ歯佛と号ふ 阿弥陀佛笑ひの人相なりてはなはだ
天照太神宮ハ本堂の東廊下の上ふあり 富士の山の如く聳ふ佛の如く
北國阿上人ハ大菩提心ありて慈悲ふく常に伊勢太神宮へ足駄をと
なへて参詣ふる道中小女ハ髮剃て葬通りなりた神
化ふそ上人の心ふ例なし慈悲心ふ出て樣ハ人ふ樣ハ神勅あれ
やとゝ参詣ふ故ふ参詣の人ふそ途の人ふ参詣ハ是樣と追ふそ
當山の坊舍ハ多く絶京ふ洛陽ふ萬戸鴨川大井川の二流愛
宕あしの峯々淀山崎の通ふて書院ふ坐して眼の下に遮る
洛中の集舍ふ拝遥ハ山院々を借りて饗應を

雪の名月ふ

家集

けのふる名月の新のふたまに郭ふ雪ハ消みふ人ふ

西行

靈山正法寺

吉山寺
筆庵
安楽寺
妙音観音
鐘楼
天神社

高臺寺
祖堂
方丈
開山

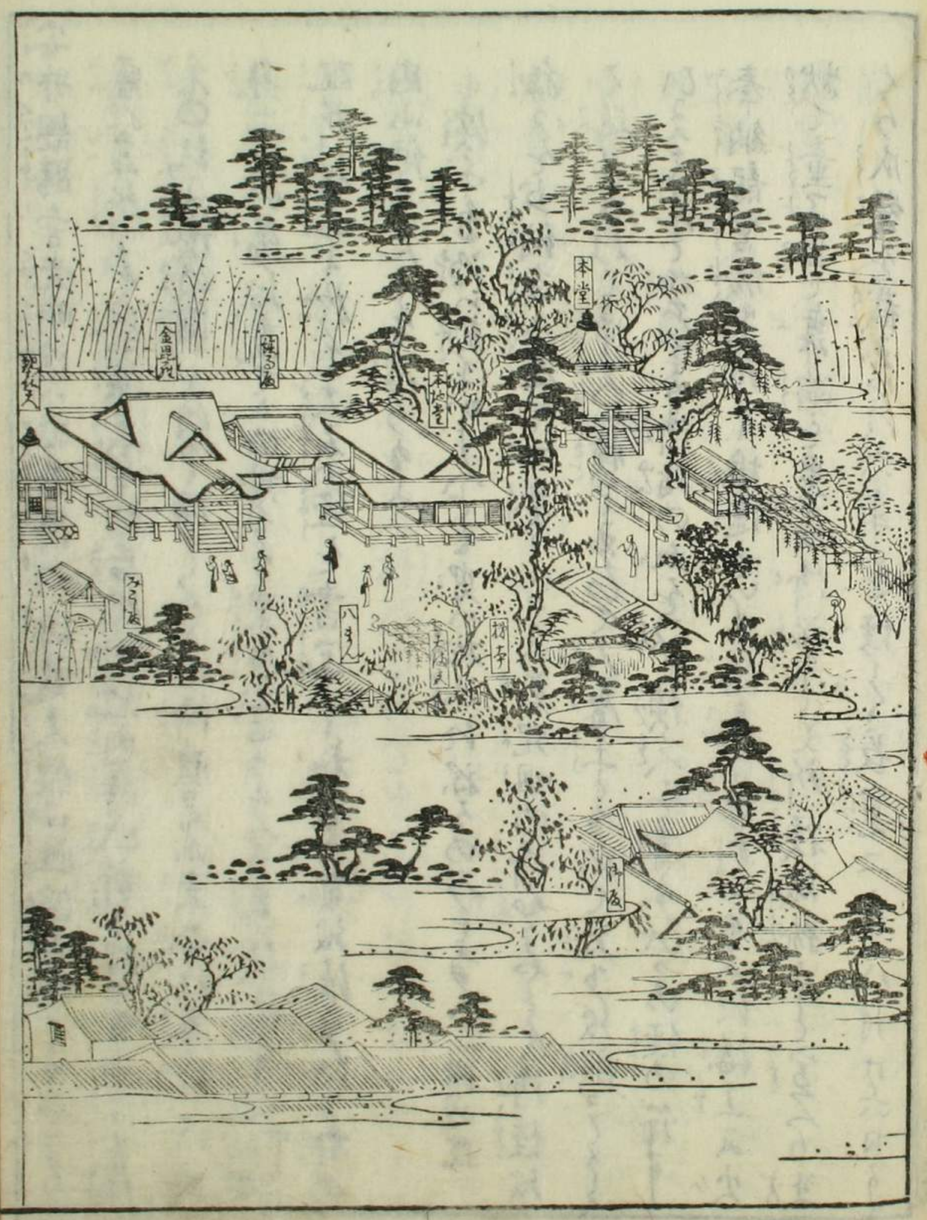
鷲峰山高臺寺は慶長年中に左関秀吉公北の政所御建立乃
菩提所にて古は雲居寺ふして自然居士住ゆしる宗旨は禪家
中興開基を三江和尚なり
佛殿は本尊は釋迦佛迦葉阿難を安置に達磨大師の御厨
子は政所公の御車を用いらる方丈の表門は秀吉公の御拝殿
をもて営ゝとゝ客殿南向ゆして襖の画は土佐光信狩野永
徳弘意了溪等なり歌物彩色美麗を尽せり本尊は釋迦如来
を安置に小方丈は秀吉公の旅ゆしし和尚の十首を彫ふなる
聖護院道澄法親王の御筆に関山堂の額は重胤と表して
雪月堂の筆は大井は政所公御車の上屋敷用いらる三江和尚
常光院殿の像は安置に祖堂なり廊下を臥龍といふ雪
月堂の額あり赤れは秀吉公御の政所の御魄舎あり
長押は三十六歌仙をかゝる画は土佐光信和尚は八隅智仁親王

の筆なり其外内張の画は狩野古右京の筆多し山上は傘
亭は千利休が好む所なり岩栖洞は段は段にあり古は岩栖院
乃旧跡なり
當寺は大木は桜数株ありて妖艶なる花の盛は園中に花宴
を催し毛氏婚むのやもぐゝ多し又秋の頃は萩の花いみ
おうみやびやかにいろへて京人は古歌紙新を思當境は住紀
なり 姥桜いとの坊中にあり 天國寺は其南に隣る
八坂法観寺は上宮太子の草創なり古は楼門伽藍鎮守等数有
なり破壊年經て今は僅なる社なり
五重塔一基本尊は 大日釈迦 東方に左右堂あり如の右は小堂は
薬師如来弁財天歓喜天を安置に むなり 清藏貴所は寺に住
もあるゝに塔大いふ傾く清藏塔あり坐して持念に朔ふ
又ふ塔を見てえの ぬしゝ 元亨釋書 憲とゝ

八坂法観寺

八坂の塔ハ久日なるそ
なりけるこの杉ハそ
あはゆるこふ春雨の
時ハかしらをもたけき
目さむるなりけり
して塔のまへふ猫坂
なり　神ゆるゆる
のん足約せんと本戸
ばりなりそかれと
られとも無し
つひふ一夜毒の嫁
となる　也寛保
延享れ浮まそ代しら
今ハ絶てなし

八坂庚申堂ハ塔の西ふあり大黒山金剛寺延命院と号し本尊青面
金剛ふして長三尺又寸大寶元年正月七日庚申ふ隆臨しまふ日本三庚
申ハ其一なり按州四天王寺江戸浅草　昭堂に聖徳太子大黒天を安置し
仏羅の観音ハ高麗寺の南昊ふ乃ふあり青龍寺と号し本尊ハ聖
観音長又尺の立像なり傳教大師ハ作ふて仏羅沉香ふ彫刻を
脇士ハ地蔵毘沙門を安置し法陽観音ハ其一なり
七観音ハ庚申堂の小一町なりふあり宗旨ハ真言ふして本尊ハ七観
の観世音なり別七観音院と號し中尊ふハ如意輪観世音弘法
大師の作なり聖観音千手准胝十一面馬頭不空羂索等の六
観の作ハ春日なりと雖法陽観音ハ其一なり
八坂といふハ真葛原南ハ清水坂まてのあ名なり其中ハ八つの
坂あり祇園坂長楽寺坂下河原坂法観寺坂霊山坂ふ井坂
清水坂三年坂等なり


本堂
金堂
鐘楼
経蔵
観音堂
阿弥陀堂
仁王門
鎮守

安井観勝寺
新古今
はとゝぎす
みれとも
あかぬ 萩浩の
うへはゝ
ゆゝしき
きゝもみるかな
天暦御製
阿弥陀堂
観音堂
鎮守
仁王門
鐘楼
経蔵
鳥居

安井観勝寺光明院ハ安井御門跡前大僧正性演再興しまゐらす
藤れ名所なれ崇徳天皇の后妃阿波内侍し所と伝せまゐ天皇保
元の乱に讃岐国へうつ流しくて御歌ヲ束帯れ尊経御随
身二人の像彩畫てらの地ろ皇后ハ送りまゐる其後天皇讃岐院
配所松山に於て大乗経を書写し和歌一首彩添まゐて都の
内小納言へ送りまゐる

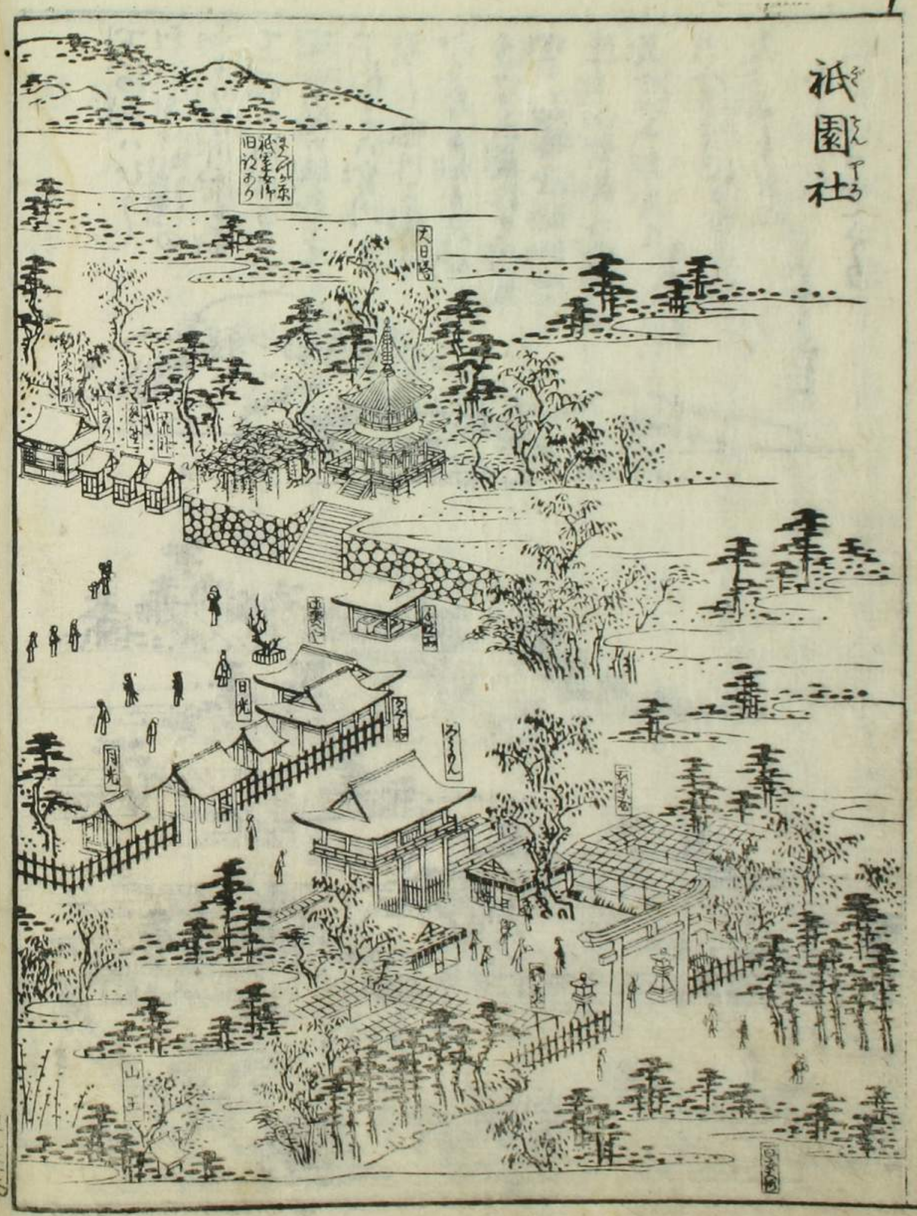
深ふかき心に於ふかんじ思ひ松山に袖をのみそをく　讃岐院

彩をお納言入道信西奏しくるい若呪咒の御願やうて御経彩
て返しくれど帝大ハ憤て大魔王とうりて天下彩朕ごろ
ひまゐらさんと拵ひまゐ御指の血を以て願文を書まゐひの経の箱に
奉納龍宮城ヘ送し堆途として海底ハ沈めまゐに海上ハ火
燃て童子出て舞踊を星彩御覧て所願成就と宣ふ生
ろ瓜髪を截ハ六年を経く長寛二年八月廿六日ろ

崩御しまゐ御年四十六讃州松山の白峰に葬まゐる　已上保元物語
御霊山地ハ来て夜く光を放ハ故ハ光堂ともいハ彩ハ大園
法師と云ハ真言れ名僧ハ所住りて系統を崇徳帝尊神彩
現じ世事の趣を示まゐる大園ハ彩奏達し詔を蒙りく
堂塔彩建立しハの尊霊を鎮免まゐ光明院と号しる佛殿の
本尊准胝観音ろ御影殿ハ後水尾院の宸筆明正院筆ニ
東福門院の名牌を安置しまゐ又弘法大師像ろ奥の社を
崇徳天皇小の方金毘羅権現南の方源三位頼政世人おし
るて安井の金毘羅と称し都下れ諸人ハ彩ハ絶ず崇徳帝
金毘羅ハ一神ろして和光の塵をはしし擁護の明眸をそれ
のひ利生霊験いちぢるしくそ人ハ彩ろ
當寺の門前彩新更科と号し中秋ハ洛陽れ騒客ハ集りて
東ハの月を賞ハ今ハ家居繁く連るしびて風流彩喪人

牛王地社は下河原の西にあり祇園牛頭天王播州廣峯くら神て結座
しまの地なりとそ祇園百度参りは本社なり山社と唱し歩の数を重ず
昔なりし例なりとや下河原を百度大路とも名あり稽祇園とくり
菊水井は所東方にあり婆泉ゐして茶ゐ可ゐり菊酒の下流山
やくりゐあり故に號るとそ
蛭ヶ池の右辺は下河原の西安井街通民家の奥ゐあるむし山地ゐ如住院
浄門跡尊性法親王性惠法親王住せゐしされ祇小坂殿といふ四条の
南なれは綾小路宮とも号ル 慶運往生 綾小路 中ハ後高倉の皇子
天台座主ゐそゐりはしませしが抑さるくまりませし住位ゐひし小
坂殿の棟ゐ移されゐそ池の蛭祇をうくひろ祇ゐしるにつくり
徒然抄 綾小路宮は小坂殿の棟にいりそや縄をひりれしもしゐば
二日
彼くゐ山出ゐ仏ゐ諫や鳥のむしゐそ池の蛭祇をうくれい御筆ド
悪しきを結てるんと人の語りしをそ 小坂殿の地は考ゐ長乗寺の慶寂律師を
小坂殿といふの意なるは後考あるへし

祇園社



祇園社ハ下河原西面ニ多居ハ石柱ヨリ感神院ニ入竪額
あり照高院道晃親王の筆なり西南の樓門ヨリ内陣ハ
神殿ハ中央ハ大政所（牛頭天王 素盞嗚尊跡）東ノ間ハ八王子（三女 五男）西ノ間ハ（稲田姫 本地）
祢祇園牛頭天皇祇園社ハ石邪ハ坂郷感神院ニ勸請ス
聖武天皇ハ御字天平元年三月十八日吉備大臣唐土ヨリ帰朝の
時播戸國廣峯ニ無垢ノ祇崇ヲ勸ス其後常住寺ハ十禪
師國如上人ニ神託ありて帝城守護の為貞觀十一年ニ遷座ス
ル中臣拔ハ日清和天皇貞觀十八年疫神崇祇ハ世の
人疾ニ悩ミ疫ノ神ニ祈ル曩祖日良磨洛中の男女を將て六月七日
十四日疫神を祢泉苑ニ送ル志ノ年くのめくミ内けて祇園會ト云ふ
ル祢禊を其所をハ坂郷感神院ニ寺
ヲ以て祢殿もうたかゝ昭宣公の御殿を海ノ中ヨリ出て神殿
ニ成祇園ハ昔常ハ殿舍造ル是精舍ニ入後人又祇園の

名祇かゝ名ル（數古事談三日）祇園ハ寶殿の中ニハ龍宮あり一ニ延久の
頃梨本ハ座主（天台座主 御門主）真深ニ祇園ヲ
小拔ヲ以て祇園ヲ
義御前ハ素戔烏の御子ハ後是殿ハ大己貴命ト申真外拔社
末社ハ圖画ニ入ル三大師ハ神殿東の庭の間ニ安永
七年繪馬堂の西ニ
藥師堂ハ觀慶寺ト号ス本尊ハ藥師如來他ハ傳教大師ニ湯殿院
の勅願所ニ
祇園御靈會六月七日十四日山鉾の行粽祭礼の制式其外五月廿九日
六月十八日の祢禊法ハ等世の所ハ所ハ所ハ安く記ス及ル洛陽の
祭礼多ク
ル臨時祭ハ近年三月十五日に執行ス
ク
の神事ハ
朝寅の刻ヨリ天下安全ハ御祈禱ヲ

新春

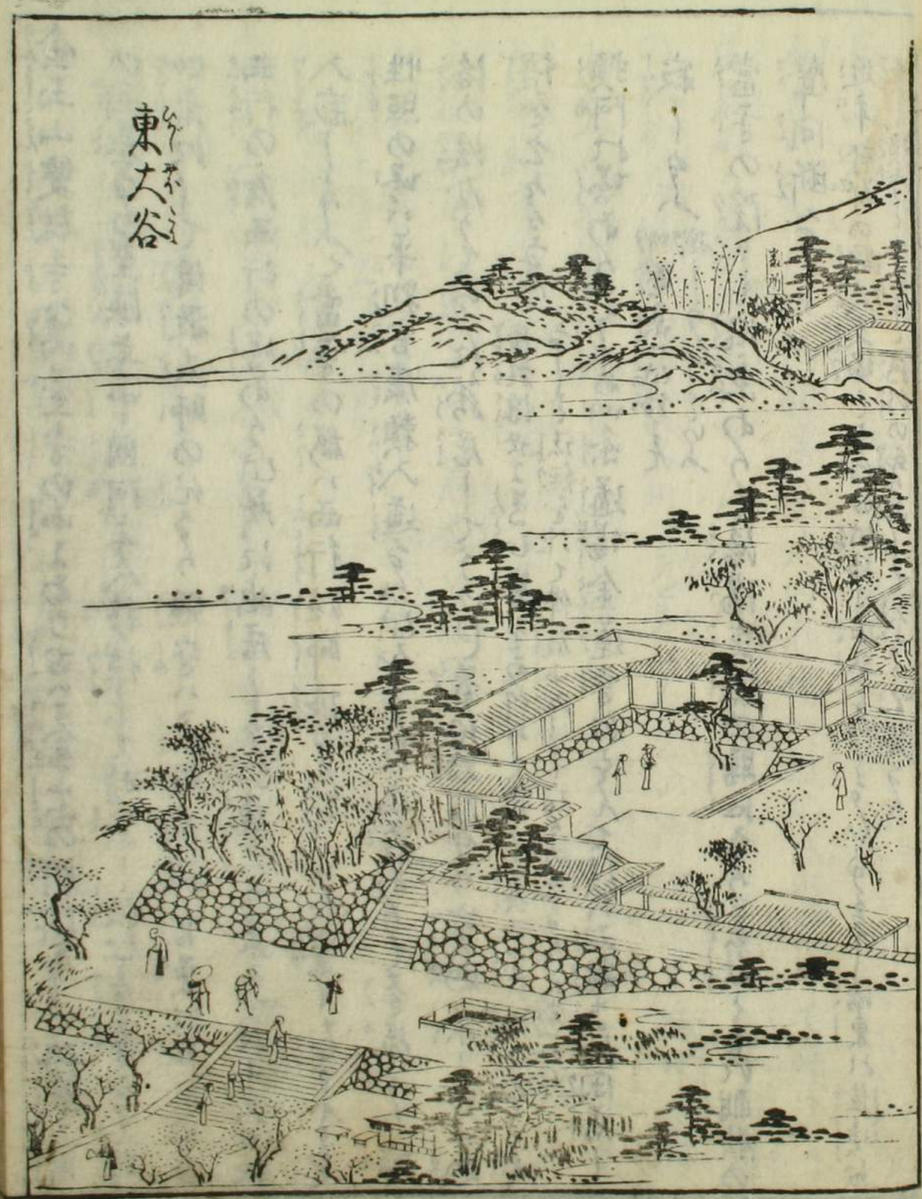
梅ちく

遠山もの
きらうおれ
るうの
し
日を
あらぬを
この邦
たよしまさ

そも〻梅は本朝風土の
名産なり其種類凡
六十九品あり〻ぞ
洛東の地勢温純にして
梅樹相應し清香他
境に優れり中あつて
梅樹いまゞあるを
きらびむのしるし
桜花の詩歌を見
其趣るり梅桃の梅
の字紙ゝ〻て梅れ
文字〻〻今清朝の人
長崎の付来ふ梅の実紙
ぬりて本国ふつゝ実生し
ところくに鉢植るゝ〻て
賞美をゝらゝ〻ゆ

金玉山雙林寺

本堂
めて
花の下陰


東大谷

東御寺
本住寺
日蓮ゆかりの地

金玉山雙林寺は高臺寺のはなれあり古は天台宗の別院にして傳教大師の開基なり至德年中國阿上人移住して時宗に改む本尊は釋迦如來にして傳教大師の作なり鎮守は天照太神宮東は丘にあり西行の庵西行の塔あり此所に幽居しもひ遠久九年二月十五日に入寂しあるに當寺の橋は西行法師拙なひつくりたまへるを性照の時は平判官康頼入道なる山に莊あり在流より歸洛の後座をうつされ終居してうち首級をひきつ寶塔をあらためて辨し真の寶は佛の寶なり康頼俗世をまむ寶をあらためて佛教ふべしもるの云なり之巻あり語を云なるなり

頓阿は塔あるをもて四条道場金蓮寺にをんて後は双林寺に閑居し寂しのみ撰しのひとつ

卷集は此地にて

當寺の院々も風景あるを洛陽遊の勝地なり玄恭も酬歌の聲間斷なし

近年都畿の騒人文塚と名付け此地に墳墓をいとなむ多し法華堂は住僧なし貴しとなるとて彼塚の記なり

大谷は双林寺の隣りにて良小あり東本願寺は祖廟なり阿弥陀堂は本尊は安阿弥の作親書聖人の廟塔は後の山脇にして墳上に虎石あり石の形虎に似れども名にしたがひ閑に聖人住生の地柳馬場押小路虎石町とみ秀吉公の御時伏見城中に移しあり其後の地なりとぞ

聖人は御墓そなへ免東本願寺の境内七条の小路あり世の人旧地を御墓町と

えん永年中に造宮あり廟前の莊嚴みやびやかに微妙なり

大谷の名義は初名と載るべく花頂山の山地なり樹多くしく弥生乃旧號をとりて名づけるなり

貴は御釋をなせり

東漸寺本住寺は大谷の南なり此地ひろくして伽藍あり共に日蓮宗なり

して本能寺の末派なり

真葛原は祇園林のこなり知恩院の南をいう

祇園女御の旧宅は雙林寺門前あれはなり東西八間南北五間

此地を耕せんとすれば紫雲たなびくぞ

東山長樂寺

遊長樂寺
路迷鷲嶺通靈崛
眼渡鴨河望帝城
心在空門齡已老
須辞俗境脫簪纓
藤李經
書院

園山安養寺

ゐさらく
志賀原の
夕くれい
郭ふきうる
秋の
やまゝ也

蕉笠

東山長樂寺は大谷の小よ遙らうでめ開基い傳敎大師みてまくも天
台れ別院ゝり當ふれ致景い唐土れ長樂寺よ似ゝらゝて新號れ
ゝ後い國阿上人伝拙して時宗とあゝゝむ本尊ハ十一面觀ゝるゝり
傳敎大師唐土ゝり帰朝れ打ゝ海上よ出ゝて龍神敬をあゝゝ頭ゝ祝
ゝれ像紙戴て本ゝ大師礼拜渇仰ゝるひゝれい勿論ゝてかの像衣乃
袖ふ死来しゝゝり當寺れ本尊ゝ之臺座の下れ蟠龍い大師れ化みて
ゝれ謂ゝり　已上縁起　辨財天れ社ゝりこれ神敬も大師制化ゝりて鎮守
ゝしゝゝ後れ庭造を相阿弥の化ゝて世よ名ゝる勝地ゝり
又當山い洛東第一の風景ゝて風城九陌の大路小路小かゝ二葉ふ大宮嶽
ゝり南い鳥の羽の峯淀の川澄紙ゆゝゝ舟まで眼中烏精れ客とゝゝる
蓮華水い隆寛律師とゝ台宗の僧後よい法然上人の貴子とゝりて
專修念佛の行者と形ゝ十業ゝて寂に其時ゝ化ゝ寺建ゝ花ゝ
安徳帝れ御衣の幢い當寺れ什寶ゝ　　冊建礼門院御鉢をゝゝ時御戒師ゝい長楽寺の御誓上人御師直衣とゝ

園山安養寺い長樂寺れ小よゝり是も山門の別境ゝて傳敎大師れ開基ゝ
本尊の阿弥陀如来い安徳の位の位建久年中に慈法和尚ゝゝ其後
時宗ゝ改免國阿上人住職せゝゝに盲人源照ゝゝ者琵琶の妙曲
を奏せゝば天聽よ達し後小松院の恩寵を蒙ゝ紫衣を賜ふ是盲人
紫衣の始ゝゝ源照ゝ當山に祈誓ゝ世よ名誉ゝゝ
とねゝ約ゝて願を成就せゝば當寺の本尊紙建立
吉水の井い鎮守弁財天れ傳よゝゝ　長法和尚ゝ紙ゝ　青蓮院宮御代の
法親王灌頂の時ゝの名紙閑伽ゝ　ゝゝ吉水和尚ゝ
来臨ゝゝ御ゝ化ゝ汲せゝゝ　　衣源ゝに例式の列を紀ゝ
當山坊中れ書院い昇ゝ
庭中よい石紙ゝ本ゝ泉を催ゝ池を鑿ていゝ紙ゝゝ緑樹芳艸繁ゝ
花絶ゝ流鶯の履れ音源ゝゝ中ふも多藏房の庭い相阿弥の化ゝ名藏房
也　の玄院の画い雪溪の筆ゝゝ法師ゝ延れ地ゝゝれゝ仏地ゝ

知恩教院

華頂山大谷寺知恩教院は浄土宗の摠本寺にして鎮西流義の元祖
圓光大師宗風興發の靈地にして吉水の禅房と呼ぶ初は東北に弘
今は勢至堂の地にして大師入寂しぬと也
星霜をへて山門十二代の座主青蓮院慈法和尚法然上人の弘法の
隨信しぬひ法化を寄附しぬ昔は今は圓山と称せり面して吉水と云
至って　台命を蒙て嶮岨を穿て平坦とし今は めぐ伽藍庵建営
洛東第一の山門に掲る華頂山の額は靈元法皇の震筆なり本堂大谷寺
大度なり
の額は後柏原院の震筆なり
西の間は華厳を巻上げ壇上に　神牌を崇奉る大師は廟塔は東の
山上にあり勢至堂に掲る知恩教院の額は後柏原院の震筆なり本尊
勢至菩薩は安阿弥の作　満誉上人化人なり紫雲あり勢至堂の傍ふあり
大師入寂の時聖衆来迎し紫雲水面に引き異香水気に遺るとなり
一心院は真面にあり七本尊阿弥陀佛は安阿弥の作
抑々祖大師の傳記を鑑に見れば久米南條稲岡の産なり久米押領使

時國母秦氏之子なり父歎て夫婦諸とともに佛神を祈る秦氏夢に
利刀を飲と見て則妊身とす長承二年四月七日午刻男子を誕ず時紫雲
空にたなびき白幡二流降ぐだりて簾外西方の椋の木に止り鈴鐸四方にひびく
紋彩日に映やかなり七夜を経て天に昇る是より此樹紙誕生椋と号後に佛
図を建て誕生寺と號して今に有り赤子の字を勢至と号け仏道に驍を抜
の数より叡智にして学問を慕て西の壁に向ふの癖あり九歳にして日國の菩提
寺の室に入て学問を院主勉学とす人倩小児の量を歎ずる是只今に
徒に道鄙の塵にはじたんず紙坪に比叡山西塔北谷持寶坊源光に
に勉学の書籍に日進上大聖文殊一體とあり時に久安三年二月十三日入洛して
勉学の書を持寶坊に入て源光に紙披て文殊の像紙ずるに小児の
上洛せるよし使者にたいしやく児の聰明なる紙賀せり則十五日に登山し
源光試に四教義を授ずに義をさして不審をなす紙人所なる天台の要論
なり不思議のなりにおどろきたれい拭涙をのべていらでに人を対面せんと内身四

月八日小児を相具して功德院の阿闍梨皇圓をたづね室せむ皇圓是ちなを
なる紙聞て驚て曰去夜の夢に満月室に入と見て此人小を産ずと前兆の
なを悅ばしなる因年十月髮を剃戒檀院にして大乘戒をうけなり斯て恵
解天然にして四教五時の瘡立ぬ紙りけり心三観の妙理玉をみがく所立の義師
の教にさえなり阿闍梨感して曰学道はこれ大業なりけ天台の棟梁となるべし
なりなるべきなり此年も又名利の学業なり紙師席を辞して久安六年九月
十二日十八歳にして西塔黒谷の慈眼房叡空のもとに紙初稚なり紙頃の
志願ふかなり憧れたお系にして出離の心を起す是は延通理の聖なりと
感じて法然房と号す実名紙源光の源と叡空の空を採んで源空と號す黒谷に
塾居をなし出要を求るの心節なりしだいの道なり生死を離るべきと一切經を
披見せるに五遍なりけれども諸の經論なりなれば思惟せるにのしもかなく
あまたも高し遂に恵心の往生要集并善導和尚の釋義を仰ぐ指南とせり
ひの釋迦の乱相の凡夫称名の功なりと順次に浄土に往生なるべき旨を判せり藏經

彼見の為ふ眾を窺る事ニ遍ニ遂に其釋義にハ專念弥陀名號行住坐卧不問
時節久近念々不捨者是名正定之業順彼佛願故文ふ至りて末世の凡夫弥陀
の名号を念ぜハ彼佛の願ふ乗して往ふ浄土に生ぜ紙得るとなりふ伏し案安
五年の春四十三歳ふして餘りを捨て修念佛ふ帰入せりしハ法然上人の宗
風日本にあまねくしかるに門の悪徒ども紙破せんと或ハ大系ゆて問答あり
皆念佛の理ふ服せり建久二年の春ハ後鳥羽院の逆鱗ふよりて四国ふ左遷
せられ給ふ承元元年十二月ふ勅許を蒙り改系して東ニ去る名ふ因極ふ入る當ふ
のたまり遂ふ建暦二年正月廿四日午の刻法壽八十歳ニ遷化しぬ入滅ニ月十
九日ニ七日の間大法會あり勅命に依て御忌を修し給ふ奪ふ聖骸荼毘に
を図蘭麝の匂ひハ布金ふ滿て法延中日ハ知恩院宮法親王御焼香あり寺
勢の大僧正を初め洛の高僧大會の坐列を正し敬礼渇仰の分野去此不遠て極楽
浄土皆大師の厚恵顕然たり渇ゆるろ
洛陽の貴賤抽をつくそもの〳〵辯来する紙
俗御忌の盛なるハ〳〵とゝ名づくるなり
流生石ハ黒門の前にあり胡桃の墓ふして紙を結ハ塔中宗泰院ふい
[illegible]

親鸞聖人廟塔の遺跡あり大谷本願寺と號して代々聖人の代文明年中まで此所ふ
小鍛冶ヶ井ハ〳〵門の傍ふあり三条家地名知を求ハ時當ハ〳〵桜数株あり
白川の水上ハ志賀の〳〵越ゆり流れて東ニ流れて東ニ流れて白川橋の名あり知恩院れ門の
を西ふ流れて大和大路ゆり賀川ふ落る

新撰載

白川の絶ぬ流を長きて年代ちがゆる友ちどりの水　法親王覺助

東三條金藏寺御猛堂ハ青蓮院御門跡の院内ゆりニ猛の像ハ傳教大師の俗
當寺の本尊ハ不地藏と号ハ傳教大師唐土ゆり將来しぬ
[illegible]
尊勝院ハ南の丘ふあり本尊ハ元ニ大師の坐像ふして自作ゆり
粟田天王やしろハ御猛堂の東ふあり本殿ハ感神院新宮ゆり例祭ゆ九
月十九日ふして神輿ハ基鉾十五本あり
佛光寺の廟所ハ天王社の東ふ隣る所ハ陀堂ハ明ふ夢中の感應ふして
吳羅ゆり廟堂ふハ開山親鸞聖人の畫像紙安置

栗田口
御猿堂
午頭天皇
佛光寺廟所
親鸞聖人
植髪尊像

粟田山（あはたやま）日岡峠（ひのをかのたうげ）

古今六帖

粟田山こゆ
ともらむと
思へども
心を返し
かけける
かな

喜撰法師

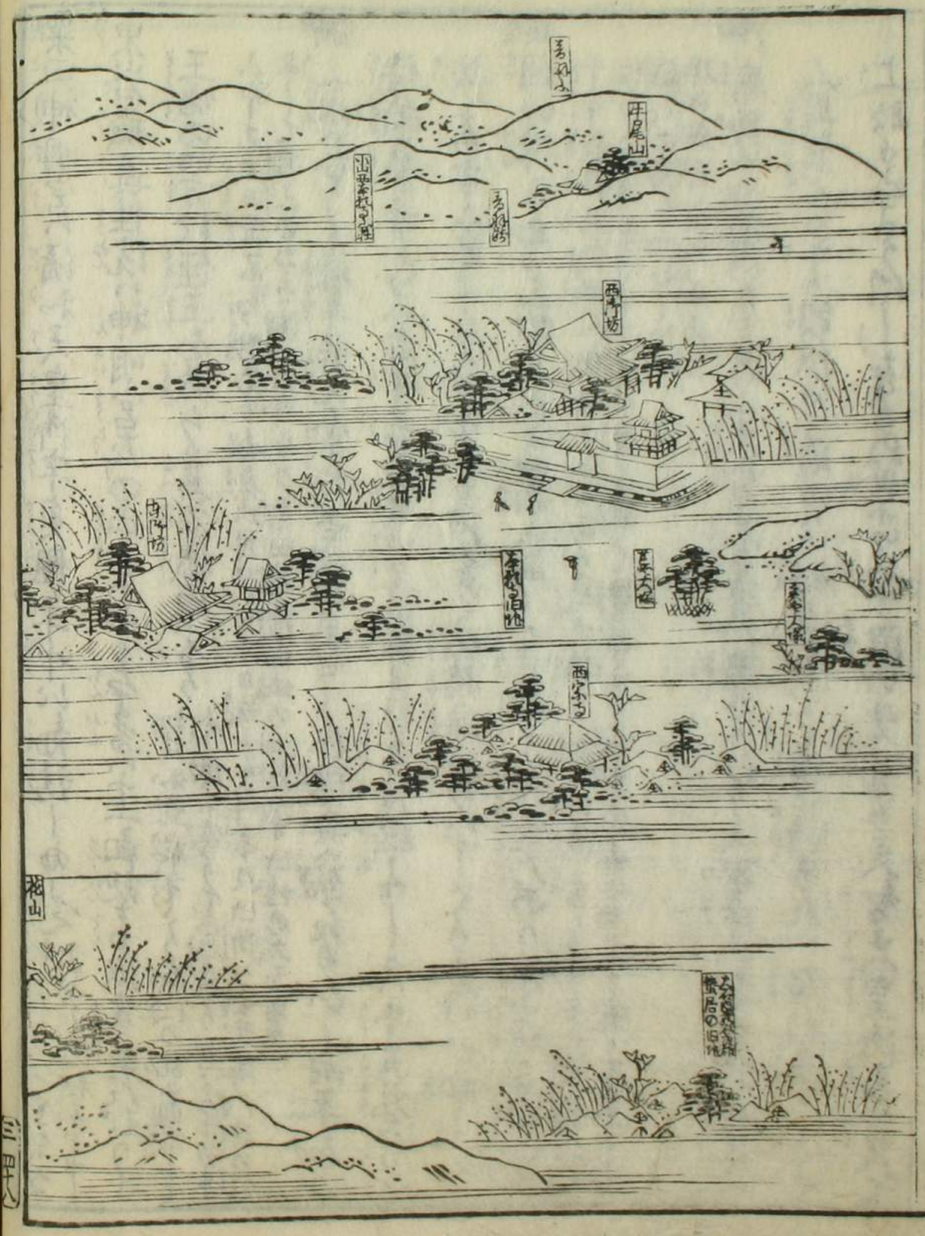
夫木

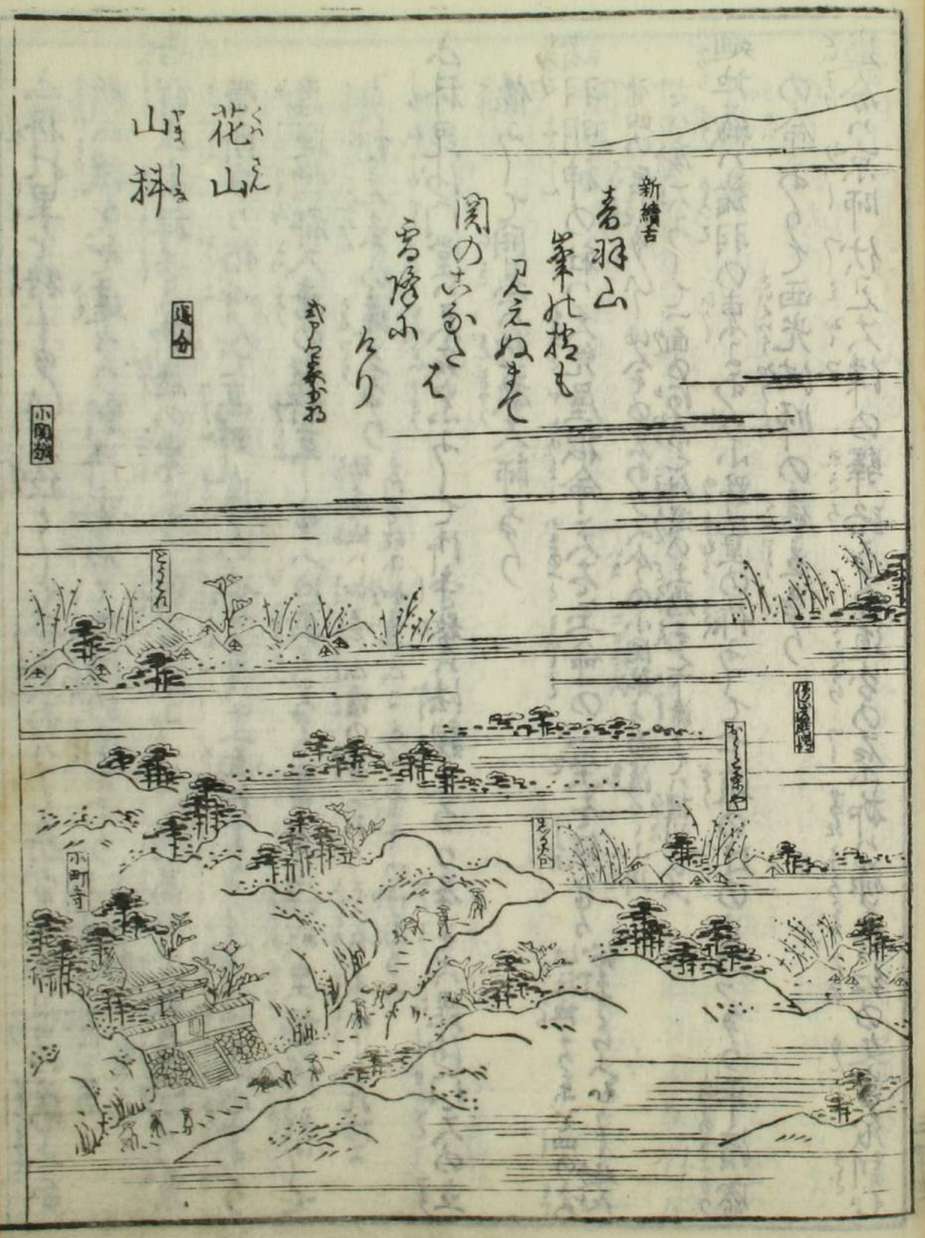
東路と
おもひし
はやく
あふさか山
人もり
さえて
君をまちける
都の人

読人しらず

華頂に親鸞聖人植髪の尊像は佛者るの廟所の東に隣る舊青蓮院御門
跡の院内に在せり祇園近辺に山地祇園と称せり堂舎を遷し華頂に御堂
と称せ宗旨は天台なれども親鸞宗義を掬て正信偈文念佛和讃御文章
等の勤行あり本尊は阿弥陀佛の坐像祇園安置なり右の壇上の厨子に安置
親鸞を安置に長三尺ありて立像なり小紫の直衣に落紅梅の御衣を召紫の袍
甲形の指貫と着し雲綱縁の沓に五て児童の御姿なり抑此尊像は人皇
八十代高倉院御宇承安三年に聖人誕生なり御父は大職冠鎌子公苗孫
有範卿と申御母は藤左郎義範卿の女なり聖人幼年より
出離遁世の志頗深しくなれい九歳の春蓮院慈法和尚の許に翠髪を雛
の比御受戒なり範宴と名乗給ふ和尚言郷しかるに天台止観を修
発遂に難行を捨て易行に転ず本願念仏の一流を心通の慈法和尚聖人の
剃髪して御願を立て法を伝へ給ふ剃髪を御願に拙を生せらるる日を植髪祭
祭と號し一宗門俗習作日にして繁昌の霊地とそなりぬる

栗田神明宮は清和天皇御宇貞観年中に勧請しぬ
東山石蔵真性院は神明宮たりし上に有り本尊は十一面観音祇園安置たり
王城の四方に金剛王を蔵る其石蔵の一なり
山中に大日堂不動あり毎年六月廿八日千日詣して群参たり所は安井御門跡の
あしして當山の出る陶器に可なり栗田焼清水坂のたぎ等山地の土を用る
上水いむし添牛若丸金賣吉次に具せし陸奥へ発れぬひし時平家の
侍関東に市とて者牛若の宿を年に戯れ遊ぶ牛若丸刀を
抜て市を走りぬ御答とて紙多く伐捨通るあひしなり名づけ初しえ
日岡の峠より西の方に四面山みして其中に住還りあり俗に姥ヶ懐と
千本松毘沙門堂は御通のゆかあり峠の梅香は地蔵を安置て本食人
行して渡海を造る牛車の労を助く暑熱水に石部の恵のにより陽の貴異の解
旅人の渇を止むとて
碑の銘板待所にあり
御廟野は日岡の東にて人智天皇の御廟なり
人馬駕籠下り乗紙の通り行る修り里ちく諸の儀式れば名しくそ
上野なる山ようけ一きりめ世ふて人十陵の末一きり天智天皇御馬ふれて



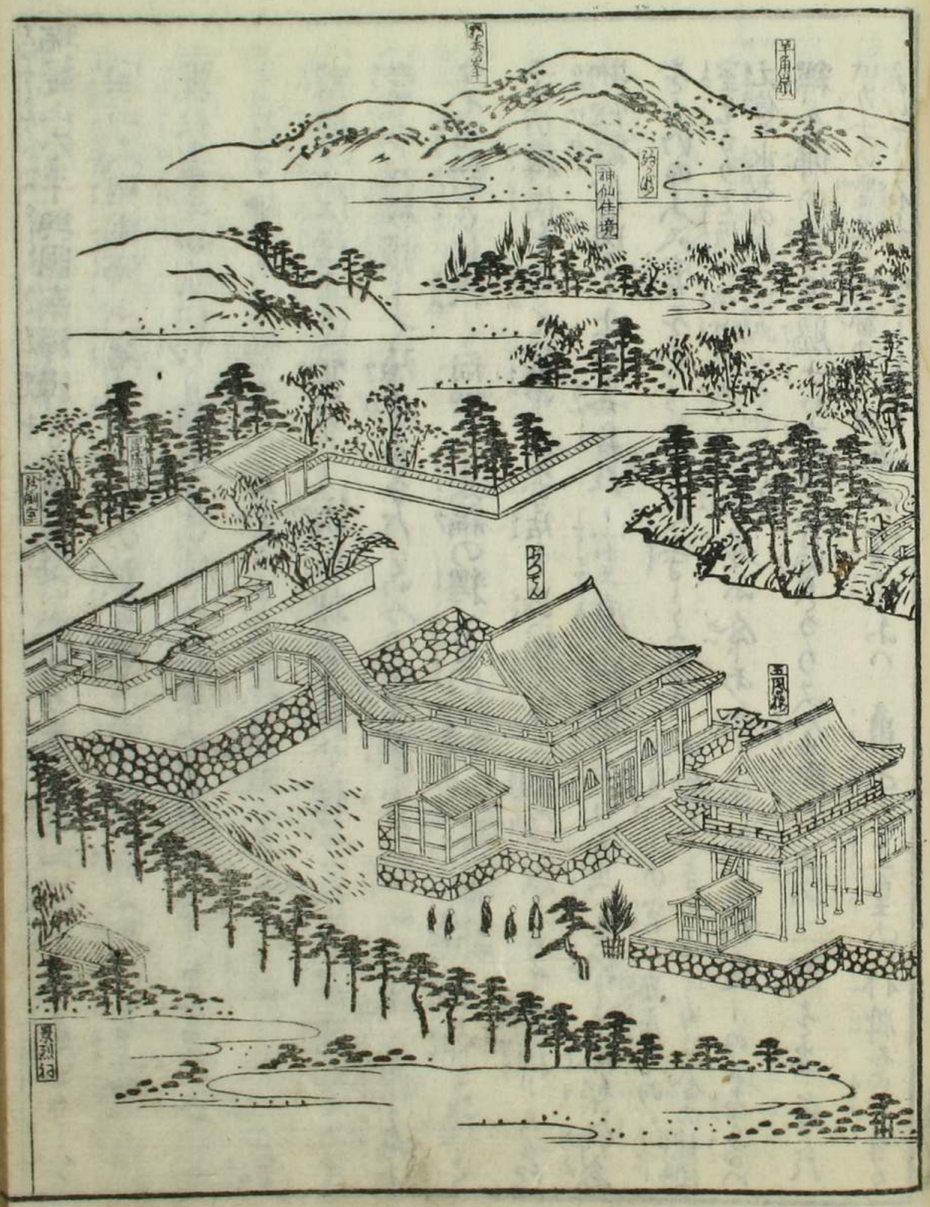

新續古
春日山
茅ヶ崎も
見えぬまで
関のさゝ
雪降ふ
ゝり
花山
山科

山科の里を特しめし勅願にして登天あらせ所なり佛者の為止る
所小陵を和を建なり則佛者石にて陵の南にあり天皇の佛者山石の
吉祥山安祥寺は佛廟の東にあり真言宗にして紀州高野山寶性院乃末
帯所なり俗呼んで高野堂と云本尊は十一面観音なり傍に地蔵堂あり
惠運僧都入唐の時将来しゆへ地蔵菩薩なり當寺は深殿皇妃の佛者にして
貞観元年の建立なり 初めの地は如意山麓の故に如意山と云なり當寺の境内なり
山科毘沙門堂は天台宗にして佛寺勢は法親王なり本尊は毘沙門天の立
像にして開基は傳教大師なり
諸羽明神の社は天児屋根命天左玉命の二坐を鎮まる 社地なり赤と四の
分四の宮なり少しその名あり又今の小関越なり流るる小川
古は廣大にして一面の河原と往還の土橋を下流なれば橋川と云
廻地藏は諸羽の東にあり小野皇の作にして七道の辻の其一つなり平清盛
の命ありて西光法師の建立なり
遊分は京師伏見大津の驛路なり道分の名柳は孫花は紅の文字板刻む

音羽山は牛尾山より東南の山なり高羽黒小山村は道の分れ
あり二流の山川あり名を高羽川と云なり山科高羽川にて古より
和歌多し 延徳の比高水寺殿三品花溪と宮嬢の別荘あり 行嬢居士の墓あり
山荘あり今西本願寺の
て牛尾観音堂は小なる通は安履石あり 弘法腰掛石結界澤
細子澤高羽澤を諸の右にあり仙人窟五丈巖を左の岨を少なるなり
四丁ほあり地の測は陰語の左にあり 新後撰 経信卿 今 後拾遺 定家 前左大臣
高羽山花咲ぬしも春坂の関のあるてん白の雲風 宗尊親王
なびけ松吹風の高羽川あるも深しと乃下げ 後園寺道
高羽川高けの波も岩越て関のあるてんあきふなり 定家
時雨のこ高羽の里は近なれと数の人はあるてうてはるし 前左大臣
牛尾山法厳寺は七四の上にあり真言宗にして本尊は十一面観音なり
の佛作聖士は不動毘沙門天又行叡居士延鶴法師の像は安置なり
帝の社神明社あり 不動像は弘法の後にあり黒泥巖金生水は堂前にあり 智證大師は四品にて紺帝金泥の曼陀羅を写しめ

當ふもり延徳ぬつるゑ川の水と紙ゑ行敵居士の皆を捨ひ大悲の化現ある
る紙智せる霊場へ合陽ほ求るの縁紀ふ素し皆通るの故に清水る奥境と称ら
付ゑ古ハ仏蓋義ゑ寺ハ旧地ハ花ふの跡八代蓮如上人文明年中の建立へ
ふ科本願寺ハ旧地ハ花ふの跡八代蓮如上人文明年中の建立へ
實如證如三代住職しゆひて宗風繁義し堂舎漸々ろ逐ふ伽々不定
頼ろゑふ国縁ふ及へ委ハ信長光秀ハ今山科御坊と称して東西本願寺ハ懸所ニ寺ゑ
天正十二月廿六日蓮如上人の塚ハ旧地の西ふあり實如上人の塚ハ寺の野村東二町ゑ
花山ハ藩石峠の東ふあり元茶毘ゑ寺ハ むり僧正遍照ゑ ひしく天台ふ寺り
本尊ハ薬師如来則遍照の作へ人皇二十五代の帝ハ寺ふ入のひて祝髪し
ゆゑ寺れを花山院とぞ中ゑる

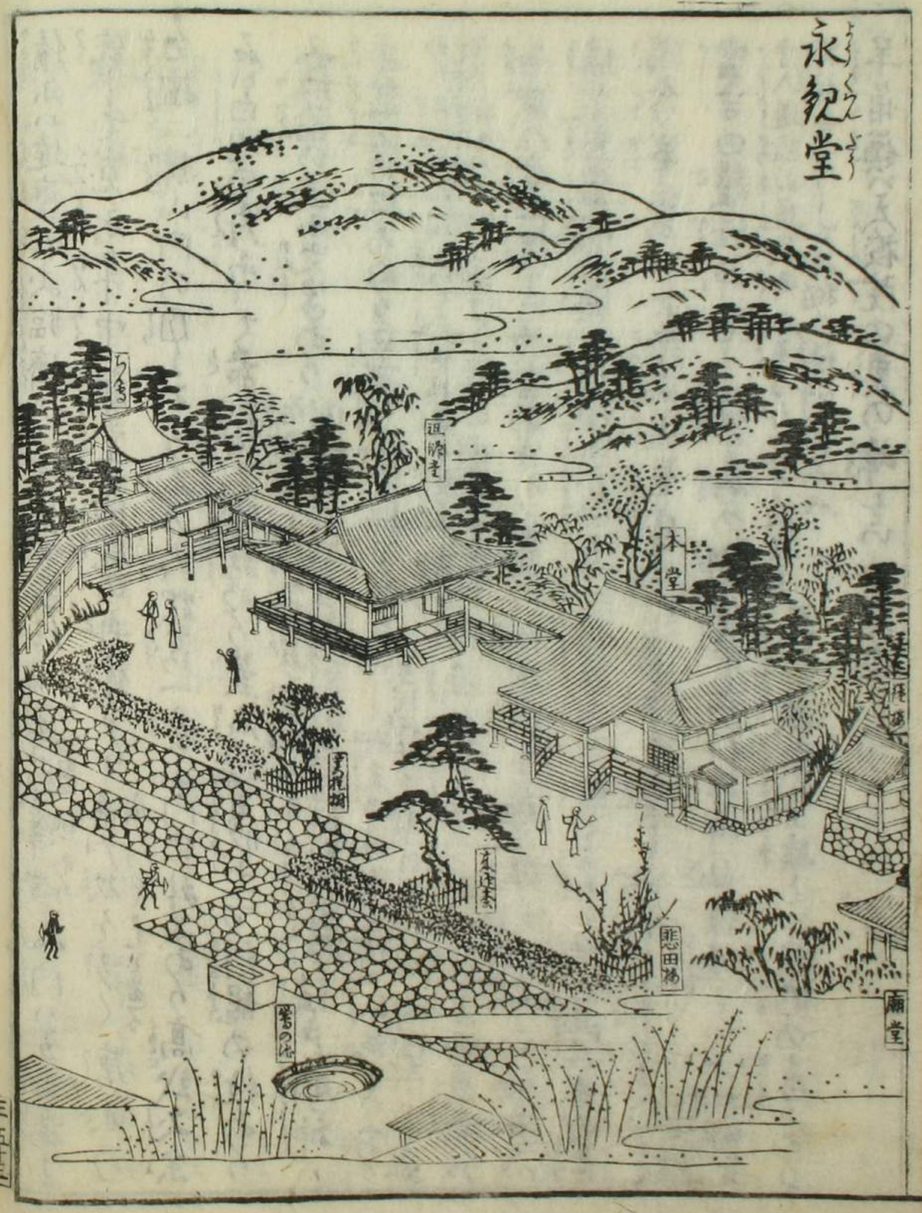
花ふ山ゑ院ろ寺ろに僧正遍照の宮ハ分の塚のちり寺る紙ゑて
続古 あるしるれ伯ゑふ和ふ橘元義むり しのすや君し た 清岩図基
苔集滅道とふハ今ハ藩石峠を ふ所寺玉章地蔵尊ゑ名ゑの ハ藩ゑ を小野
小野ふ心を通ハ能来をあの名安執の懲暴消滅の為ふ伽紙他ゑ紙内ふ蔵む

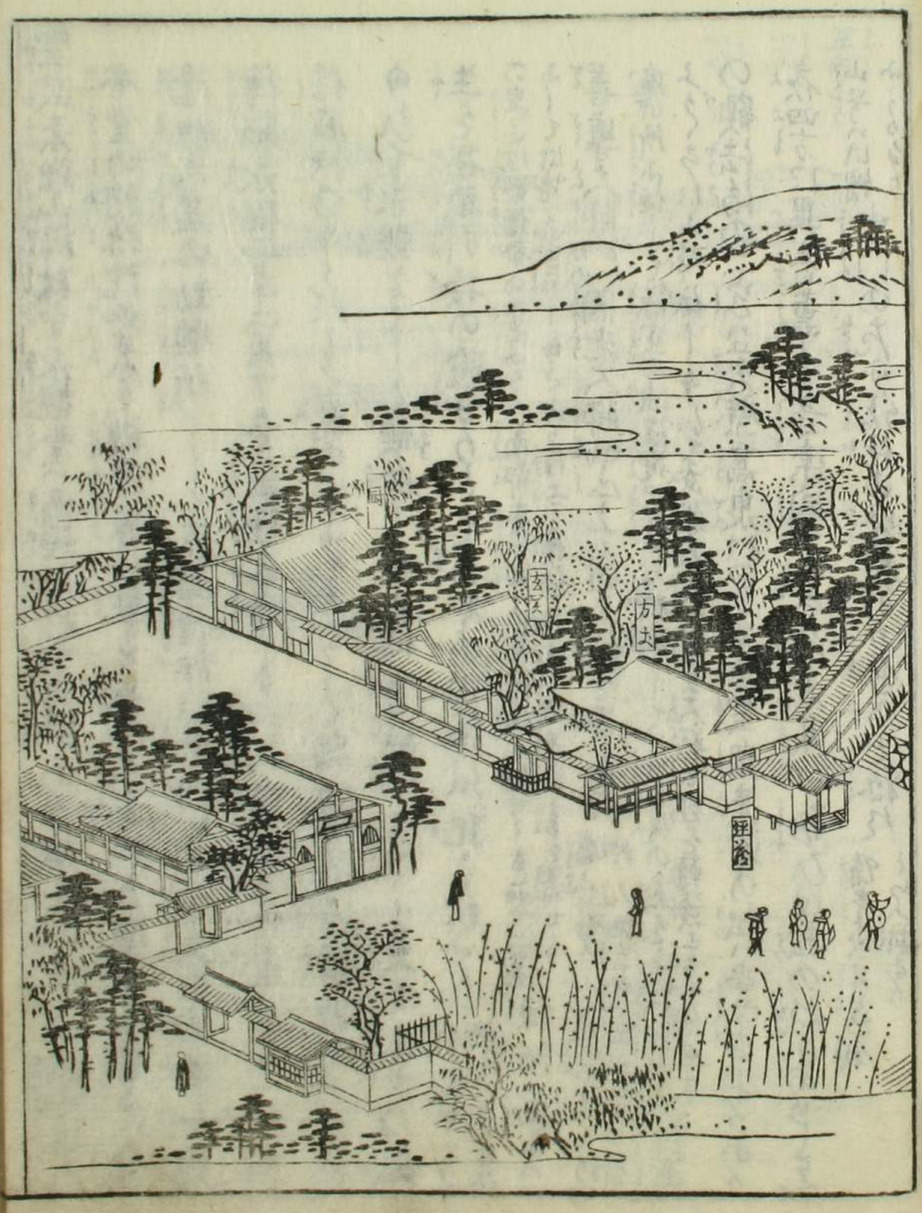


南禅寺

瑞龍山太平興國南禪禪寺は寒巖の際にあり舊亀山法皇の離宮なりしを
開山大明國師に賜て五山之上の號を蒙る當山の記に曰　太上皇亀山
院弘安年中に此地を離宮をいとなみ給ふ正應のころ宮中に
しるべをもうけて嬪妃大ふるやうあり陰陽頭ふたれ卜巫しむるに故
家勝光院僧正道智むかし山地に棲世ふるの僧正なり祈て其靈のうりて
當山に秘惜して障碍をなしつり故に顯密の諸師呪術巫祝ふるぶ
まで百計をなし拱く同四年東福の釋普門當寺の開山無関和尚と謚大明国師勅命を請て
二十の禪侶を率て宮中に安居し只伽藍をなしてを禪しるに
物怪跡なし上皇感のあまり普門を礼して伽梨錫杖
をうけ入て宮をあらため寺とす
室をうり上堂の鳴鼓の画は古法眼遂に命ありて佛殿を創建しの字をあ
元信の水呑の虎は探幽ありて紫宸殿
釋迦佛の坐像脇士は文殊普賢の二尊を安置
仏力士の仏像は四天王のごとし南の塔とふ
亀山法上皇の祈牌を宗とす

倭ふい達磨百丈臨濟の像は安置
號して寛永年中藤堂高虎の再建なり　唐本乃
白檀二株山門の内にあり石の大燈籠一基山門の外にあり高弐丈余
石に白川の産にして希代の大燈籠なり蓋石の寶形に二ツ引龍の紋あり
又地輪の上に文字あり　南禪寺山門石燈籠寶永五年九月十九日　佐久間太郎亮平勝之寄進之為　法眼筆堂
拳龍池の乾にあり是當山の鎮守なり　後戸明神は
あり土人ちかくにて祠を建て庶永年中に南禪院に亀山法皇の震筆
俗英俊和尚に祠を造て山門の境致とす
安置金地院に神宮あり白紙に風凰竹を描る横門左右に隨身乃
像を金當院の開祖に大業和尚五山僧録司の號を蒙る的の滝に東の華
獨秀峯にあり大僧正道智常に此瀑布を愛し感涙を流す
當寺の護法神にして社を滝の側に建てこれを神仙佳境と云滝の名にあり
寺入道禁裏道家卿の息なり之井れ長主　道智を光明軍
禪林寺にして又狗の傍に
羊角嶺に天授院の東の峯をいふ

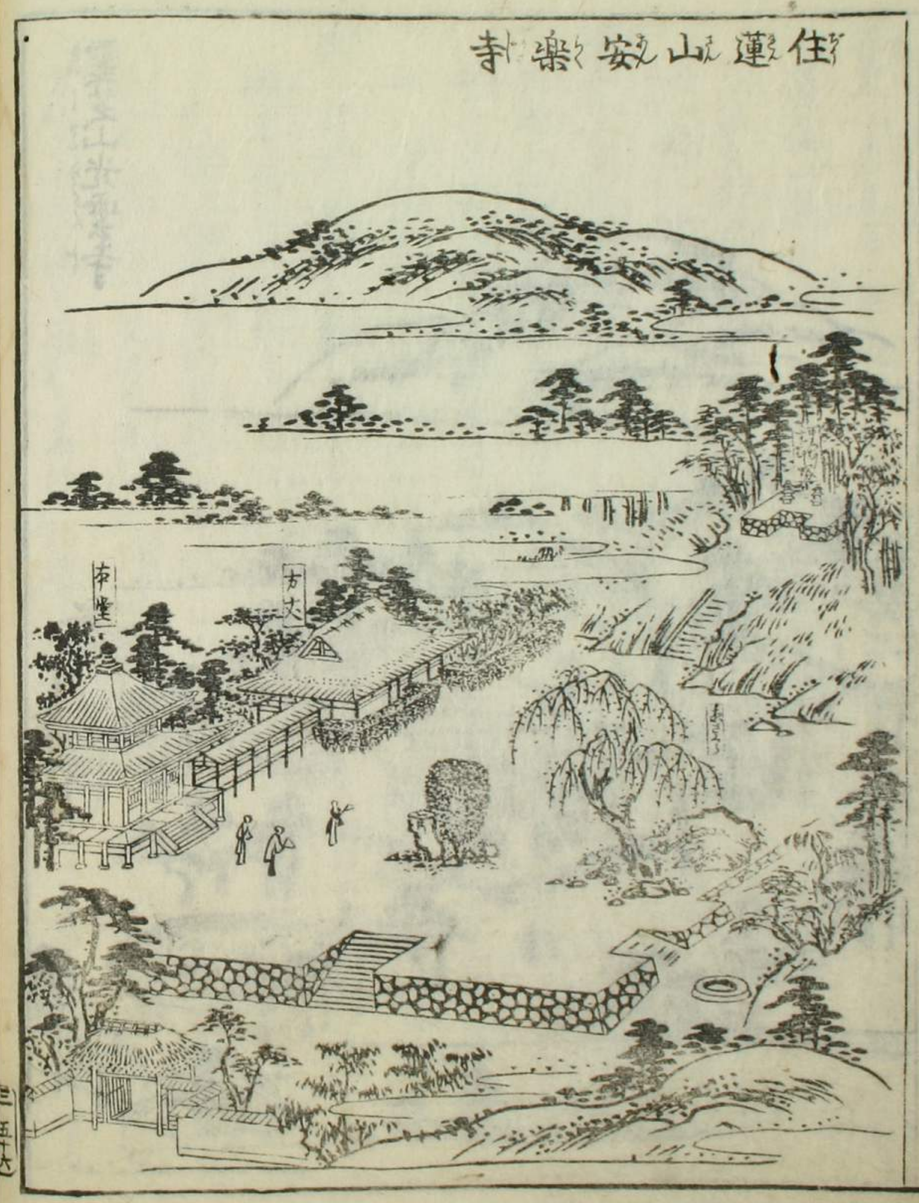

永紀堂
本堂
熊田湯
廟堂


同
方丈
庭園

聖衆来迎山禅林寺永観堂は南禅寺まれゝの隣てあり浄土宗ゆゑて西山流と
本堂の阿弥陀如来を顧本尊と號を長三尺余の立像なり當る八春
清和天皇の勅願所にして直紹僧都は草創之中興の開基永観
律師永保二年二月十五日晨朝衆僧とゝもに行道の念佛聲をあ
信感はなはだしくして乾の方みそなはすに躍躍せり本尊檀なりとも
のひて永観とそしと顧命しのの律師感涙を流し是ぞ末世乃亀
生を摂取引接の證なりとして自花の由緒記さしらし今當寺あり
の皇子法觀僧都のまなびなり南都東大寺の勅進職を補せ四十二歳祖師堂はい
みしてはは地上雨居しをくらを修生十四等の書を著せり
善導大師自然園光大師西山上人のこゝを安楽
遍所ふ位して永室の滅後撰択集を拾閲して一向専修の義をとる法然朝臣
ふくらしふ帰伝しゆいて武蓮長久の為に天紙妙経を轉写を真例ゆまり
の額法海の二字は英壁高泉和尚
夜四方に異香薫し音楽風へて菩薩来集の粉ひ山松の枝ふあり
山号は紫雲山中門のたふ弘化の学校あり金ドと称

正東山若王子ゐん永観堂の北に隣り天台ふ門にて修験道役行者の職し管
護院に属し本社は熊野三所権現宮ハ後白川法皇の勅請之儀ハ若一
王子を鎮座し観音堂ハ那智山の本地十一面観世音菩薩安置し洛陽観音巡礼の
其一南北三十ふ余あり那智の滝をうつしたる宮殿壮麗にして珍奇の名所なり庶伝の無尖ふかくして荒廃ふなりてくうん
霊芝山光雲寺ハ若王子の北隣る禅宗ふ而して南禅寺天授菴英仲和尚の
再興也佛殿の本尊ハ釋迦佛を安置し式体ある所霊芝は殿りて光を空に
映じ又ハ紙小鼎ハ殿宇あり霊場うるゝ感じ東福門院より當
寺を御建営あり一と瑪瑙石の手洗鉢ハ佛殿北後ふ当寺の奇観なり
鹿ヶ谷ハ霊鑑寺御殿の前を東ふ流る谷合ハ其巾二町斗ふありむの
俊寛僧都の山荘ハ新大納言成親平判官康頼等ハ所ゐ如意嶽ハ東北峯ふ
して楼門龍ハ大本の古松四五本北下ふあり鹿谷より八町含合し平家滅亡を謀議を企てしと
又大斗雨の後ふハ水場そ近く所々に抑ゑ嶽嶽北南ふ隣て白を巖を堆き谷流て
万仞の青巖路を遮れり義経ふ後迂と公花衆山嶮難ふて常ふ人跡稀なり

住蓮山安楽寺

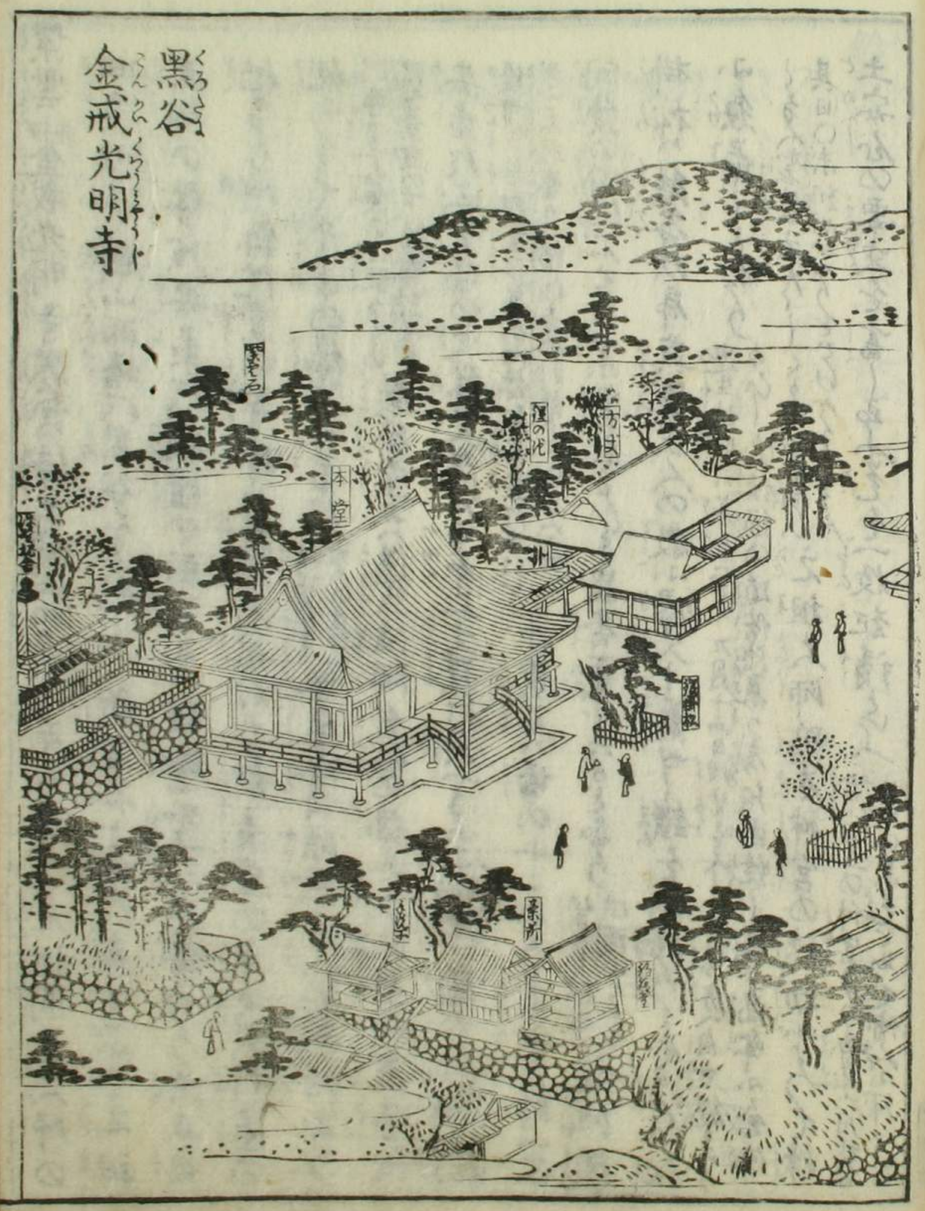


住蓮山安楽寺は鹿谷にある本尊は阿弥陀佛の坐像にして恵心僧都の
脇士は紀まる勢至を安置せり共に運慶の作なり寺を當寺は法然上人
如法念佛を修しまし地なり徒弟住蓮安楽の二僧に附属しまし極楽に
後鳥羽院の愛妃松虫鈴虫の二婦一向専修の勧に入れて出家室来り
尼となる 上皇大に逆鱗あらせ二人の僧を刑し法然上人を四國に配せ
其後年経て念仏法の旨に帰せるに住蓮安楽の二師を開山とした
善喜山万無寺は所に在る本尊は阿弥陀佛の坐像にして恵心の作開基
万無上人古は法然上人門徒にて営む後念佛を修しまし旧蹟へ故に法然
院も號を本堂のおに銅像の地蔵尊を安置し客殿の庭に霊水を銘
を若葉水と云ふ地は松風萩露にて幽谷に響し寂寥として鐘の音
ともたゝ人らもを清涼元塵の佛界なり 世に六字は名の名佛
称名を唱
るなり

を鹿ヶ谷流と云ふ

本堂
玄関
御影

鹿谷法然院
浮合谷
鹿ノ谷
陰殿
陽殿


黒谷
金戒光明寺

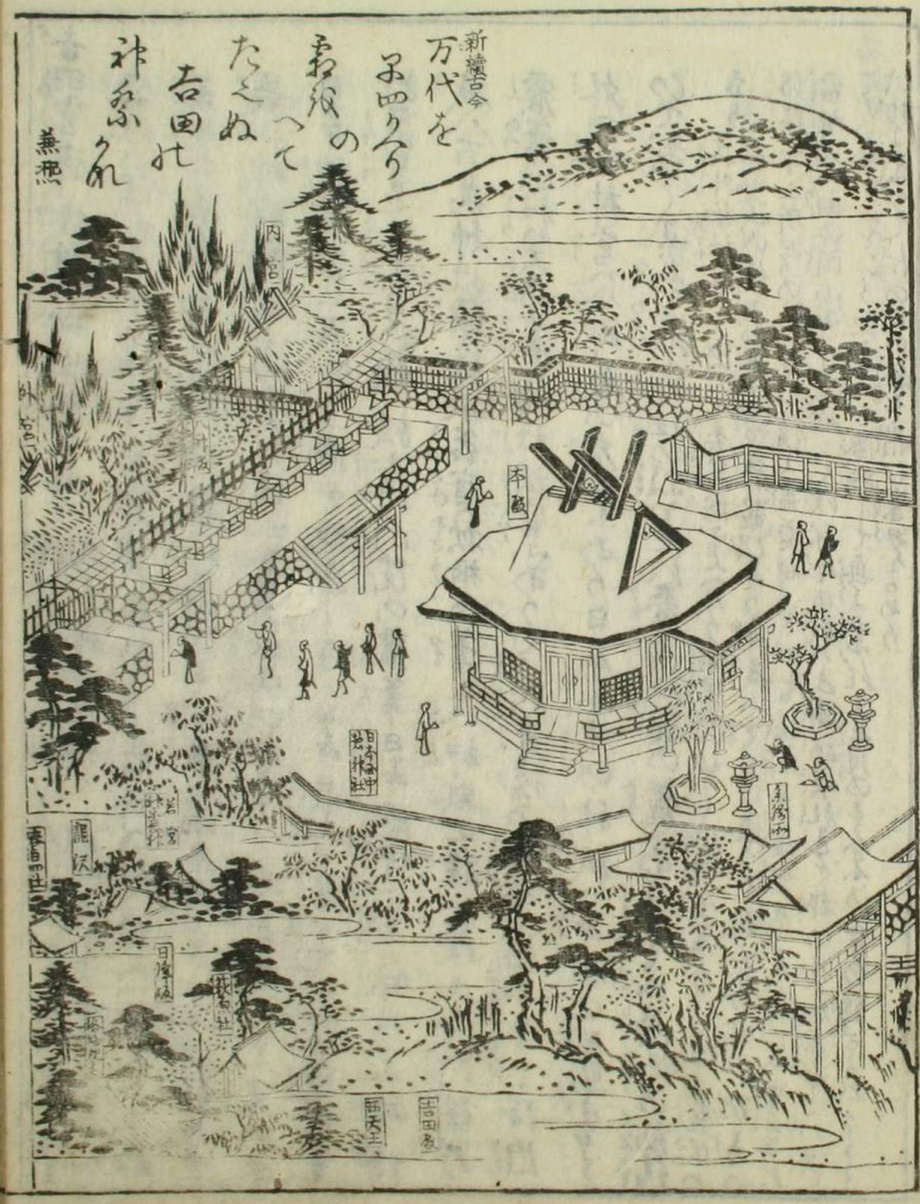
紫雲山金戒光明寺黒谷は浄土鎮西四ケの一本なるゆえ祖師法然上人の
旧蹟にして叡山西塔は黒谷を分して新黒谷と称し本尊ゆえ祖
大師の像彫刻安置し脇壇の厨子ゆえ親鸞聖人の像あり共に自
作なり阿弥陀堂の本尊は恵心僧都彫刻観音堂の本尊は行基の
作にして千手の像と安置し勢至堂は法然上人の廟塔あり
勢至菩薩の化現なり（観経に勢至菩薩の化現なり）　黒谷堂は蓮生法師自作の像たまへ敦盛の畫像板
置之蓮座の下に五輪の塔あり
安置し二重塔の文殊菩薩は日本三文殊なれ共一なり（丹後切戸文殊　奥州松島　安房洲崎）　脇士は維摩居士
優婆離尊者
優婆離尊者は善財童子等の四像彫刻安置し本尊は天照皇大神宮八幡住吉の神像なり（大神宮）　紫雲石は塔の小さあり元祖大師（宗祖）
開發の時山にたなびく紫雲なりしと異香薫じたりとなり（紫雲の号は山号なり）　鐘は澄
掛松は黒谷次第真實上人の教に帰入し着せ鐘をかけたる松
小無量寿堂と称す
（蓮生法師は兼之二年九月十四日出家し法方へ自分縁の道俗数人を引き連れ共に高野に念仏
具日の未刻に往生をとげたるなり）
土安仏の要文を書しあり是を一枚起請と云
（当山第一の什宝なり毎年六月廿日出平の日是を出して諸人に拝せしむ）

鈴聲山真正極楽寺真如堂は天台宗にして開基は戒善上人なり本尊は阿弥陀仏
の立像長三尺三寸慈覚大師の作なり脇仏尊像は羽黒志賀鹿明神の神
本を大師ゆえ本殿毎日光明を放怪を別にあり仏形鮮にあり故に其像を
彫刻とる永和五年に大師入唐あり天台五基宗にして顯密の奥儀を究り尊乃
弥陀経を傳て同十四年に帰朝せり後に引摩の石あり是を西方に向ひ祈
誓申し小舟の帆に小像の弥陀香煙に立て成就如是切徳荘厳し唱ゆ大師感
涙を止て加護に小舟帰朝せしを胎中に孕み大師立世の間に叡山常行堂に安
置し其後永観一年の春戒善上人に懇願に出て一切衆生利益を大
霊夢あり雲母坂の地蔵堂に建立本尊とする所是
有縁の地なりと其夜の告に林に囲に檀家本尊とする所是
を移し白川女院の離宮に又は夜女院に告げ
ましたれ先に中遷し正暦二年に林宮下あり仏殿を建立あり
（今の真如堂は此の所に移る）
応仁の乱田中里の綾女に本尊に日蓮念仏を唱へ経の読誦ある社堂に眠りに内陣より
（建永五年に洛陽・永極・今出川・くろ地に遷座ましまくり）
出るとく元の法祇をそなはり五劫思惟に仏あるべしも　真如堂如来

真如堂
方丈
玄関
稲荷
拝殿
山王
元貞女堂
鶯鳴水

本堂
鐘楼
経蔵
開山堂

神楽岡
吉田社
中門


新撰吾今
万代を
経四ろう
春風の
たえぬ
吉田社
神垣
内門
本殿

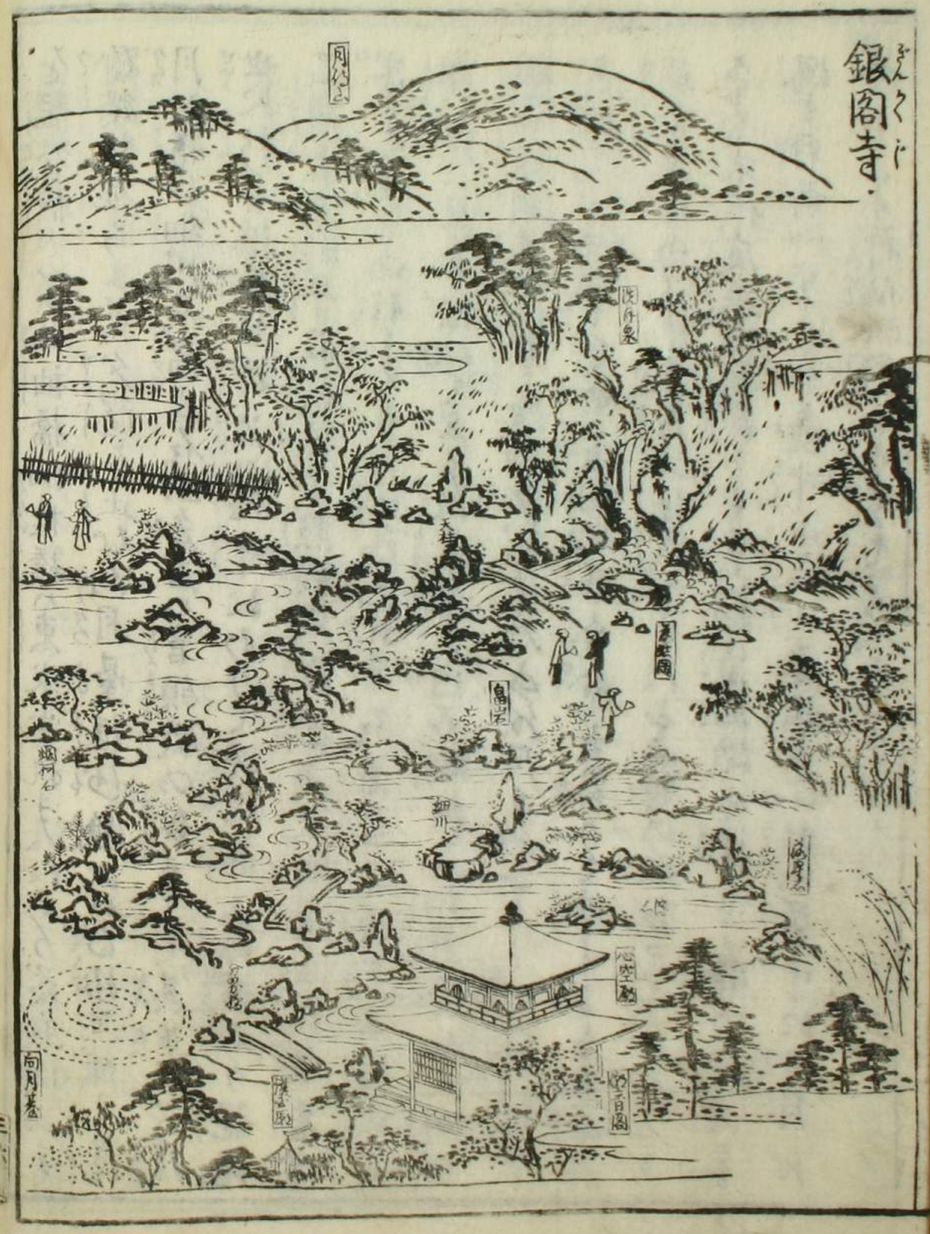
吉田宮齊場所ハ神樂岡ふもとの人ハ八百万代の宮と天照大神宮の宮ふ人の人ハ八百万代神達
當社ハ清和天皇の御宇貞觀一年中納言山蔭卿の勅請ふ一説ふハト祇
園延の造立ものの日本花の樓門の額ハ日本最上兩大神宮中門の額日本
最上神祇齊場とあり共ふ清水谷實秋卿の筆なり社殿大元宮ふ
日本神祇二千一百三十二座を鎮座します日本最上日高日宮の額ハ後鳥羽
院宸筆大元宮の額ハ後土御門院の震筆日本國中三千餘座天神地
祇八百萬神社額ハ清水谷實秋卿の筆ハ神殿の額ハ後土御門院乃
震筆社ハ大内裏の時神祇官ふ有ハ別宮後の駿神祇官ふ有ハ内
外の左神宮ハ神殿の左右ふ有り日本玉中の神祇ハ本殿の兩脇ふ
ひそめ奉る其外板社ふ數しらず也ハ春日の社ハ西の麓ふ有り是も山蔭卿の勅請
なり其外板社ふ數しらず也ハ春日の社の傍ふ有り日吉ハ龍ハ本國ふ有り本國ふ有るの道なり新長谷寺の
洛陽二十三所なり其一なり傍ふ靈神ふ虛空藏菩薩ふ安置
常所ハ一面の岡山ふして嶮しく峻ふ
此地ふ來りて春日と德ふして與ふ帝ふ
此地ふ來りて松の日の短を惜む案ふ
松の葉の錦なるかなり

長德山知恩寺百萬遍ハ淨土鎮西四ヶの一本寺なり古ハ加茂の神宮寺ハ
て慈覺大師の艸創なり法然上人ハ勢下上人ハ尊信あり感應をふるひふと
弘通しまうふあり時鳥皇左神宮寺をありて未世流れなれ一枚起請と
云しなる人墨なり當寺を改て念佛の道場ふ流布勢紀房源智上人
ふ附屬しまう人師盛の男なり無双れ智者とふ人ハ後醍醐天皇の御宇ふ日本
ふ疫癘流行て死なるもの數多ふ後帝ふれ祇憐のひて諸の祈禱を
とふ人ふも驗なし時ふ當寺の八世善阿上人ふ勅命あり是をうけ
まう善阿系内ふて夜ふ籠りあり一七日の間念佛をとなへ一百万遍之疫
病免ふ逃て天下安堵ふ成ふ時ふ帝ふ感感あり號を百万遍と稱
ふ時弘法大師の筆なり初祖の本堂ハ六條坊門ふ有ハ
大名堂を號ふ當寺の什寶
ハ慈覺大師の作ふ鎮守ハ鴨左神宮之毎年祭ふ當寺ふ有ハ
遠久年中ふ松間府重盛宋朝ふ黃金を送る其志を感して襄陽乃龍
興寺名刹の阿弥陀經を賜る今流前國其形を模ふ

長徐山知恩寺
百萬遍

慈照寺は鹿谷の山にあり一名銀閣寺とも称し禅宗にして爰窓
国師を開祖とす原此地は足利八代の将軍義政公文明十二年に
世務を譲りて閑居しの人別荘なり故に東山殿と號ス延徳十二年
薨じ給ひて慈照院殿喜山公と法名し
遺命にて此所を寺とし
東求堂は義政公の持佛堂にして観世音菩薩本尊なり慈照院乃
像を安置し西の方上壇に水引の濃紫に卯金の古殿し
て奥に稀なる奇物なる若松の画は相阿弥が筆別々鳥は永納の画と
茶湯の間は四畳半にして東山殿の物数寄なり茶亭四畳半に盤觴
とす高貴の賓客常に集會あり茶の乃紙楽は和漢の奇物を
聚めこれを後世に伝へり時代物といふ
二重に高閣あり小山鹿園寺に倣て金閣と號を上を空殿下を潮音閣といふ
鎮守は八幡宮は護国廟とす閣前に橋あり分界橋迎仙橋
濯錦橋臥雲橋といふ巽の方に苑泉あり流月泉と號ス下に橋

を龍脊橋といふ仙袖橋仙桂橋は東求堂前にあり落照岡あり
躑躅坂椿ら多し夕陽を止む向月臺銀沙灘は白沙を浦に落
月を惜む細川石畠山石山名石は官領職の献ずして其英名は後
世に残る浮石坐禅石は池中にあり流水橋山の使あり龍蟠
石蹲虎石臥牛石伏虎石點頭石布袋石天柱峯回雁峯香爐
峯は其石の形ふりて呉の北斗石落星石寿星石濯纓石
謝公塢は故事称して名づく其外大内石爛柯石釣月臺仙人洲白
鶴嶋臨湖臺仙草堤あり元亨年間に相阿弥が作庭は
東山殿なり茶道相阿弥台命を蒙りて造りし庭中に
風光真妙にして山水の法式をそなへ四時の壮観足らざるなし
末代庭造の軌範とす洞庭西湖も掌に握り松鶴象
鳴も目前にうつる壺中に山川を縮免一粒の粟中に日月を
蔵しる神仙術あり



我庵は
月待山の
麓にて
ものうく庭の
くもとしそ
ゆく

慈照院義政公

毎年七月十六日の
夕方に大文字をおくりぬ
其図るの後山めぐりの
ある者は山麓小学士まして
天台の仏壇あり本尊の
一〇七回忌の時山峯に
老ひたる僧らゆ入り
本尊の仏えの地へ安置し
其より千周盆会に光
明の四方と低り出る
やうに成る其後弘法
大師大文字に
星霜累りて文字
の形も壊れ東山殿
相国寺の桂川和尚に
命じ再び元の如く
修しめ大の字
初盡の一点ぞと
九十二年あり
毎年日雪の見も

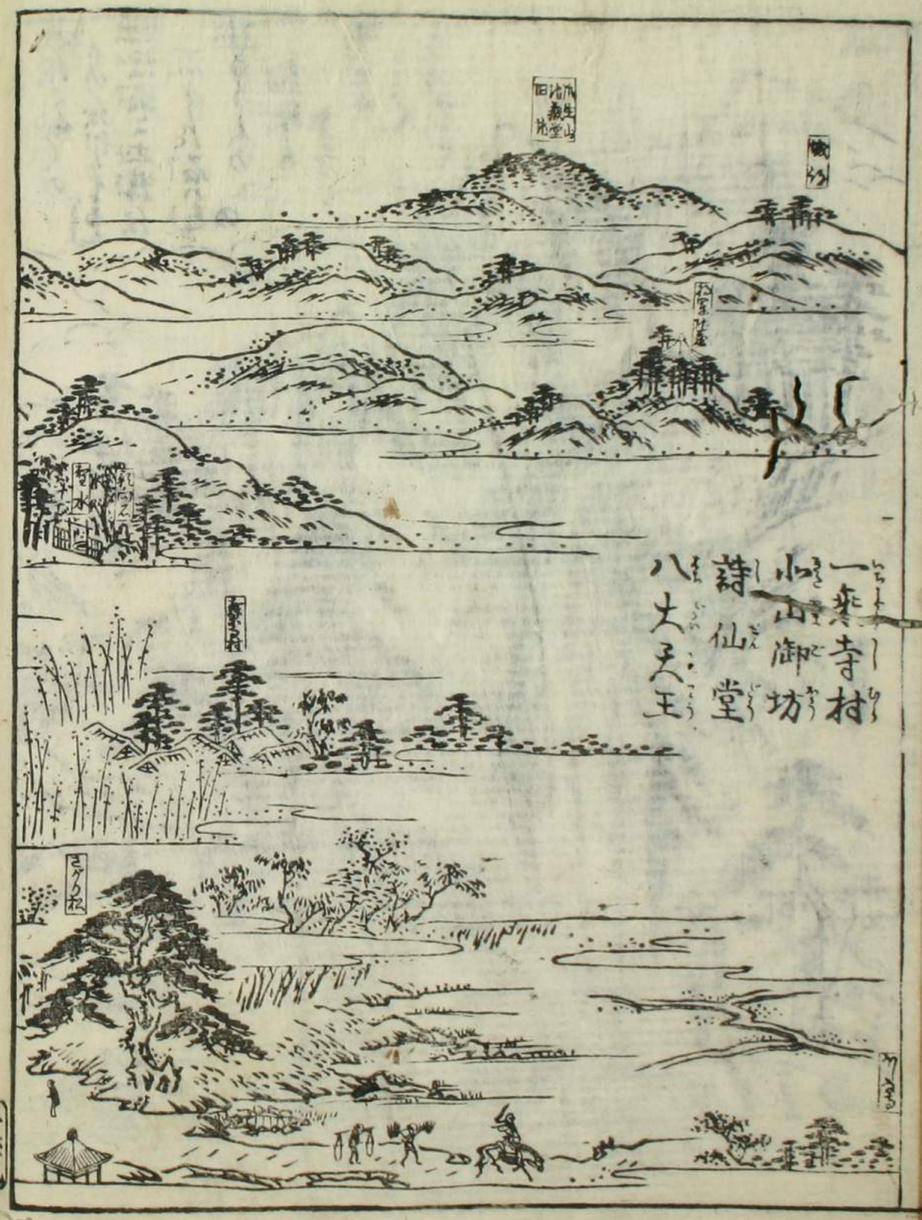
北白川に銀閣寺の小さき里あり名負して川を武家の中を西へ流る
里うん名所之白川の其一なり　民約鄉長家
後拾遺　東海道人　とらぐやちらこの御ふもかくれ花の句　後頼
白川の春は梢を見渡せば松さえ花の綻るるかな　為教
新後拾遺
秋の夜は月も猶さえ渡れとも世にかくれなき白川の水
山里は落葉に近江の志賀坂本への往還なり志賀山越と云ふ
名所付きその名をあらそうとはなれ白川の麓の道の傍ふかなり
日陰を晒し川は半に橋あり　流もいとなく
らんでなりて谷の水音淋漓して涼しかれの花を見そ水流
清くして皎潔なる月の紀聞しく橋のなりに牛石とあり
形い牛に外なるに似なり昔くるしに中の墨あり比叡の無動
寺へ登り村なるとは細道なり少し入るなんのなるの一家に川名後
ふとりそなる車めぐる

志賀の山越みて石井のをゆくあそ想ひなる人の別るるとなるなり
むとゝ数てれ京ふにぞ山の井はあるとも人ふ別めるる由　貫之
志賀の山越みて
月
山ふの小風のうけうきゝこゝに流もあへぬ紅葉なりけり　春道列樹
山中作に白川の里より一里東ふして山城近江の境なむの長なれ
山橋と称しい山峯にぞ三井寺入相の鐘い志のゝうに風ふ傷を
琵琶湖の風景一眼の中に表て地勢穆くして仏成森なるに似なり
干菜山光福寺い百万遍に小ふあり豊臣秀吉公ふ干菜を多く献し
なり山號を称る　俗ふ干菜　又云ふ　念仏に本寺なるに旨免許ある例年
六月廿五日近郷なり集りて六斎念仏を執行しなり
瓜生山將軍地蔵い白川の小にあり原い石ゝの巌ふあり寶暦十二年
山地より遷すと李尊　佛の地蔵尊長二尺の像
細川晴元將軍山に移り　永禄年中城郭に
又ゝなり其頃いしなる像も城中に安置せし

小白川
小白川の里人い
石工成業
して
水よりを入て
石成切出
究竟よ水鉢

白川の滝
物理編ニ出精成
石工成の
筋絡より
水を
うりやさそ

成仙町
詩仙堂
本堂
八大天王


一乗寺村
小山御坊
詩仙堂
八大天王

小山御坊親鸞聖人の舊跡は一乘寺村郷中舞楽寺村にあり西方に懸るの
懸所なりむかしは山門の末院なりて法堂殿重なり境地に霊水あり
故に聖水山舞楽寺と號を聖人殿嶽にあり此一宗開發の志願頻に
して山所に籠り百日別行し霊水を掬離しゆゑ洛陽六角堂救
世観音にあゆゑ夢に運びのすゝめあり夢中に聖徳太子此地に教向
ありて生極楽の要文を授あり是太子教の一流を弘め末世の流
生死化益なり〻〻霊水新白石共に御堂に来まあり永正年中に
堂舎叢越しとり其後荒廢に及ぶ太子教の九代寶如上人御堂茅創
あり一紙住如上人の代に堂舎成山林へうつさる聖水山の麓近年法
如上人當御門主門法に命ぜられ再御堂を建立しゆゑ
詩仙堂は一乘寺村大王に至る南方にて石川丈山の山荘と表に小有洞
の額あり中門の額は梅園路次の額は四凸窠詩仙堂の額は嘯月樓
下は蜂要四壁は漢晉唐宋の詩人三十六輩の像を畫則其人の

詩を丈山みづから書あり画は狩野尚信なり故に詩仙堂といふ
左一　藤武　謝靈運　杜審言　李白　王維　高適　儲光羲　韋應物　韓愈　劉禹錫　李賀　杜牧　寒山
右一　陶潛　鮑照　昭　陳子昂　杜甫　孟浩然　岑參　王昌齡　劉長卿　柳宗元　白居易　盧仝　李商隱　靈徹
林逋　梅堯臣　欧陽修　黄庭堅　陳與義　九十八
邵雍　蘇舜欽　蘇軾　陳師道　魯幾　右十八
丈山は墳は詩仙堂の巽の方にあり正保二年森朱雀村の中山
壽壙を築て頑仙翁と號をよみ侯ふ天正二年の頃士に七氏作林小居し詩を賦川と流られ
天王社は一乘寺山下里松の東にあり古は森朱雀のやしろなり八大天
を祭る社は諏訪八幡宮之山地の氏神なり例祭は三月八日なり
赤山の社は修学寺村の東山下にあり慈覚大師唐土より帰朝の時
明神は白羽の矢負て社のよ上に現し天台守護なりゆゑ神殿なり
こゝは山所に勧請しなり　轉宅の節當社の神れを家に神前に地蔵の
梵字を三所ふかる本地堂は地蔵菩薩なり慈覚大師の作なり
玉山稲荷社は高野村にあり原田裏にあり祠なり享保年中に地人
願らく所なり

赤山社
玉山社
御蔭社

八頭の里人へ
いみしへの
風俗
ありて
男も
女のごとく
髪を
くろくし
櫛
女も男れかし
脚ゑるくらけ
脛出し
くつあて
草鞋の
爪先の
緒
異なるは故あり
まうす

氏神天満宮
のもり井ゐすの人ホ
多くあり脊髪石
しそえるさ八尺
そろれてゐる殿
山西ほくろ
捉ほるしらひ
俗人伝る
鬼門ほらへ
里の西の方に
昔殿とか悪鬼
息門丸とらへ
伝しとろ羅山
文案ホハ頭顛
童ほれ門し拵
しくろくろへ

御陵社なる獻山の西に麓高野川に東ふあり下略皇太神宮降臨乃
地なり故小御生山とて例祭は四月中の午の日なり内裏なり幡例
に祭ふ式魏々として氏人の騎馬あて鞍置し神なるは錦蓋をかざし
楯鉾弓等の神具さるべく列なりて下略神臨幸あるべ
新勅 ひけて祈るそのくさにれらんかもあれのさるかりせり 雅経
矢背の里は高野の北所小小あり天武帝大友王子と位を争ひて山城の
小へ馳ゆひ一時王子の軍兵退りなりて紛けれ御背ふ矢中なり
山田人に名ふ又八幡當所ふ竜風呂あり天武帝の矢の沼平家のしるし
ちりらひを始なり 今も竜風呂七八軒あり竜風呂ふ名を名なる
大原は八瀬の小一里ふあり名狭街道にして東西ふ八の郷あり 塔戸寺村 上野村
太長敷村 来迎院村 勝林院村
井出村 野村 草生村
暫日数姫なる雪けふはなる山炭竜は煙もうしく大原乃里 式子内親王
新勅 大原は山ふれ高砂の迎なれて雪なる程なるひちをやれ 西行

惟喬親王遺跡は上野村にあり墓あり五輪石塔あり閑居の地は
西方院 上野村ふあり閑墓は 掃取院 大長敷村なる今田の家なるあり
寂忍法師 聖徳太子の御之閑墓は御住法師
融通寺は来迎院村のこ山にあり本尊は阿弥陀佛の坐像なり
湛慶の作なり閑墓良忍上人の像あり 當寺は融通念佛の開祖なり天治二年
とらは自然の念佛作の功徳なり作は隨喜して至成作する ふ其功徳又自ふ帰と
至自作不二平等融通と不可思議大の善功なりと
魚山来迎院は融通寺の東ふ隣る本尊は三尊なり中央は薬師佛 元釋迦 右弥陀
閑墓は良忍上人之山北は獻嶺西塔の小谷なり昔は坊舎一百余ありと
しるり魚山と號をるは漢土の天台山の西ふ大原魚山といふ所も天
台山のまなるれど山例よりてるかなり
音無瀧は来迎院の東四町ふあり花泉二丈余なりて翠山石に傍ふ
て南へ落る蒼樹翳欝なりて陰涼なり小徹し毛骨悚然なり
く近なく
小野山のうへより落る滝の名の書置なのこめる袖なる 西行

八瀬竈風呂

新續古誹諧

大そう人
りょう
すゝ
ふ
ゑをれハ
屋を
ぬらす
ぬる
あふを
あり名
清滝

大原
勝林院
来迎院
融通寺
多色の滝
呂律川

新古今
世をそむく
くさのいろこも
あさめぶ
大原山の
雨よりこそは

和泉式部
思ひそめ
大原山の
もみぢ葉は
いくへ重なる
雨をこそ
つゆ

おね井尼

小野山いまるるしの断れ山をいふむかうの山所にて炭を焼しこれあふ塩を
拾き
たき山木を朝ゆふ多くみちりはあてそそぐ紙こうるとの炭焼　好忠
後拾遺
夕ざれい芳立寄こ尋ぬる秋風ふ小野の塩原　藻壁門院
呂律川　魚山叢書の勝川より南小川別れて南を呂川といひ小谷律川といふ俗に漢土の
呂律の川と勝川二流あり呂律川の谷の流れ絶谷蓮生師絶を紳ふ縁して法然上人
絶捨藪　呂川の小川あり天台同谷の流れ絶えんとの明恵
ふ供えて絶捨のいとく師の
るるり師ちとり成はて大ふ新しあ人
絶成山ところとそて来しとり
井戸の清水　おやはの赤ゐ川　世和井水　律川の橋をつくりて石のうこと
石塊のうこにある法成山
熊谷腰掛石　律川の橋南のはるかの揚場を聴聞しるるり
梶井宮圓融院梨本房　呂の川のほとあり天台の座主にして諸門跡
推てあれ成祖こと　当院むのしい東坂本にあり梶井の芝こて今は四条のる
極楽院　当院にある恵心僧都の妹　賣炭翁の墓　ろのふとより古山所にて
安養尼の勧善の旧地あり　炭を焼翁し翁の墳ろりこと
極乗院と陵阿上人の墓ある橋を
ろるこひ袖ぬるめ橋花渡のうこと捨や垂ろん　成阿
護法石　当院の門前坂の傍にあり皇慶阿闍梨と云ふ看護の僧あり
隨従とあれ成護法石と云皇慶の滅後に化してゐるとろこしいひ伝へ

魚山勝林寺は梶井宮殿のほとあり本尊阿弥陀如来と號を坐像
して長七尺佛立の祖康成の作と當院に一條左衛雅信公の息あり入道
寂源法師の叡山の僧都卒覚超同静慮院偏救と
てこれ紹者のおつれ如来のおふ於て佛果の空不空の議論
あるる紹不空とのひしに如来相好成就し偏救に空の義成立
ひ合ひて相ぬ成あるつ絶と中道実相とぬ来の本ゑる
といふことに於て覚あ来ら世の人證拯弥陀と称ゆる又文治二年ろ
秋法然上人と門座主顕真法事成始る法宗社学徒と一向専修社問答
ゆらしに法然上人社法論あるこれ本尊明と成ゆ古れ成本宗問答
とい法宗社紹徹ゆる上人の弘はる伏し顕真もたちすらゆる俗の行者
しるる則法然坊と住ゆひ補名念佛絶とそこうん
實光坊　勝林院の前にある法宗社の法華常行堂　實光坊の少あり本るるい
聖覚ゆる成安亞恵心の俗
加茂法成の作り石　勝林院村の西にあり皇慶は師大行の弟子こて天台座主
加茂法成の作の石　勝林院の前にあり

芹生里　大原郷にあり　名く詠に

大原や芹生の里に踏いらん　いろは我身もとしをくるとも　実家

古知谷光明山阿弥陀寺　大原勝林院より如法念佛の霊場なり　十八町ばかり

陀佛名を称し給ふ　尊体は上人の尾張國海道の人なり父なくして母と

弥陀仏尊と号奉りて名號を呑こむ　好月と号す　其後弥陀の示現を蒙り弥陀

九と號べし　仏法の妙なる　暁に出誕す　人皆天より白幡二流降りて霊瑞多

し　九歳の時出家し　吳法國塚尾の親世系宮日系竜一念佛諸行に勝る要文を

授給ふ　自行の為に居し　或は法國を巡り　ある時洛に到り五條の橋に

通りあり　洛北の寺に紫雲の靉靆光明赫々たり　これ慕て其所に至りとぞ

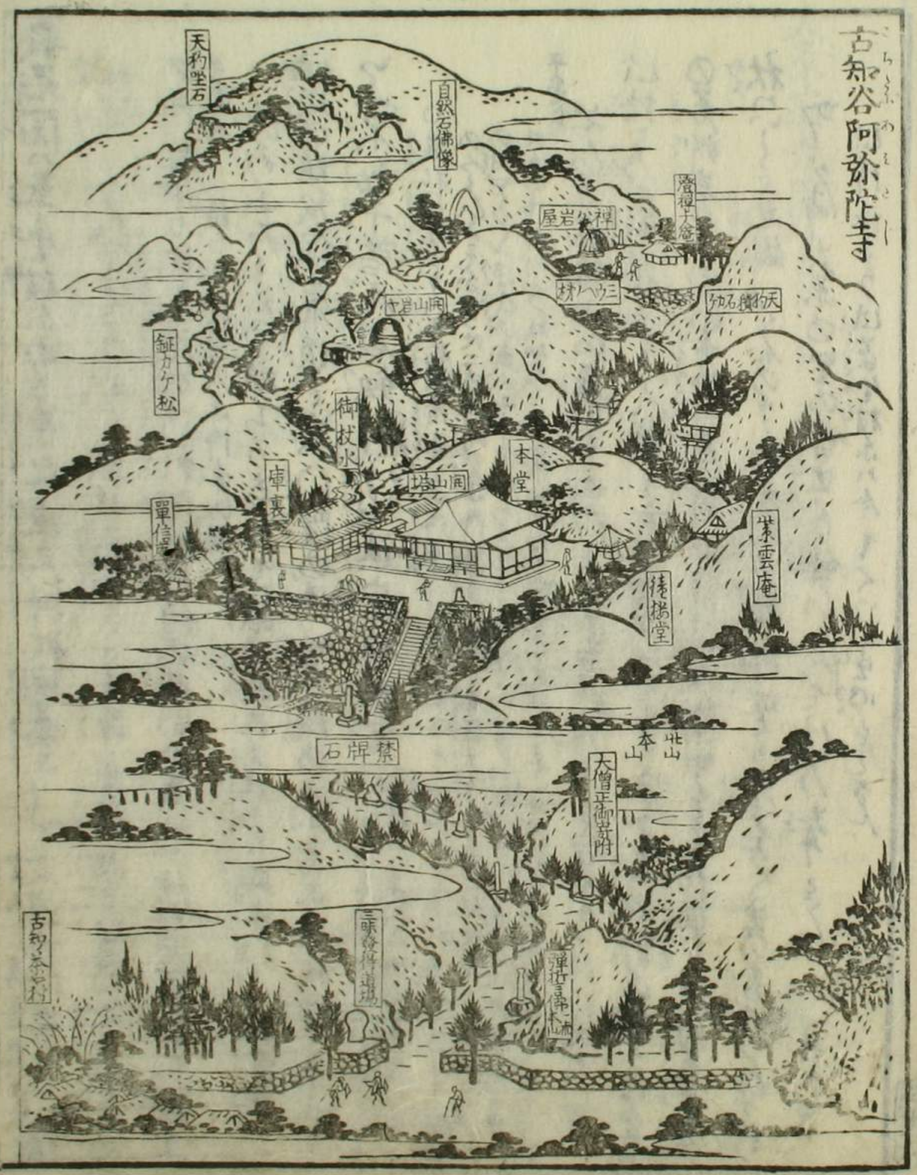
有縁の霊地と　一宇を建営し　常に慶長十八年五月廿日　角に上人

遷化し給へり　其の墓左に二戒あり　生前有縁の仏具

自作の像小十人　鉢と杖と品器常住寺の什宝　上人の綸詞傳二巻　翼讃一巻あり　共に世に行へり

世に杖鉢の石像と賞し　杖水尚ほ流れ　鉢の水の如し　後に病苦を免るしとの事　也て上人の名號和尚

霊験有縁深く寄特に多し　利益傳あり　澄禅和尚　寛保の初め　高野に居し　角の再来と称し



寂光院は草生村ふかき原弘法大師れ開基ゆて文治の頃蓮花門院
閑居しゆひしくらり今ふ迄ゆ尼ちとうる本尊地蔵菩薩ゆ聖徳太子
の御作ゆり則門院の御新阿波内侍の係ゆり庵ふ入れの池ふ入れ橋を
平家物語　後白川院法皇大原御幸の時
池ゆふみきふの橋ちり赤れて浪の花ちそちり成ゆれ　後白川院
山辺の垣根緑蘿垣しふ門院の御墳ふ後の山ふ苔むれ紙翠付ふ山と
しゆ不動干瑞石石剱の紙ゆり　鎮守神明宮
○蓮花門院とは平相国清盛公の御女にして建礼門院の妹なり
平家物語
いろひくも源ふ山の奥ふ迄ゆ
山地ふ苔ふ寂寥して人跡まれに落のつてもをくる若い御新の梅ゆり庵
の若卿若ゆり若い青柳の糸風ふ乱れ山茶松ふ乱れて花横日ふ照ゆる芳信
林ふいしく起林しく公のもしれ和れる雛ふ帰辺ゆり春去ゆく雲の雪ゆつゆり
ゆ春ふ大原の里の雪ふ出ゆる緩ふ入て法乃春ふ
山御涙ゆり山茶生村ふ今もくつれ出ゆ
蓮花門院

朧清水ハ寂光院のかたらふあるむかしをかたるなるべしかなしてあるう
詠ときるる数多しはるの霞ゆ月の影ハ清水よやどりて澄ときゆ
五月の蛍ゆ紙うりて清く退運法師も山地を巡楼して月も深うん
大原やと吟し寂然法師ハ月をもてやどる大原の里とすがりしむかしも
今さらに名の面ようりを出るあうにをうん侍りける
新拾 水なをぬ〜稲の清み庵にて侍る月の影ハうるみや　素意法師
後鳥羽院御うれをひて大原おさわるう
侯古 きさらへなれど
入月の稲の清みいろにてはるる流ゆ紙出むうん　順徳院
侯後 八重葉ゆけるるかにむをぶてゆ稲ゆ清水ゆ見もたるしど　匠房
新千載 つの恋も稲の清み岩越てをたやすくもうたるる後代　侯頼
主 まれみち〜稲の墨に侍るれて老も清水のあしるうるり　丹後
江文のやしろハ大原井出村ふあり大原郷中の氏神宇賀魂神社まつる
例祭ハ三月三日神輿二基あり

敵嶽不動寺の峰
より琵琶湖をそる
うにはるかろちば樂く
波や丹穂てら沖の
舟の影にかくれ
かゝ街の松のタイ
もに翠れ色なおう
り濱のまゝ砂地
駒ゝあそぶ民の高
根の花なはるゝ
泳ー頼政の昔も
ちひ出て仕ゆ
王維が山水ぬ
画賦ふ遠人ふ

目の前に大山入
樹す馬三人の
掟もい所くろれ
雙眸ふ濃りく
淡海の八景連
綿くして近衛
政家卿も魂と
うごりゆ
住境ゆり

延暦寺

比叡山

良嶽從來寺案扉
先王立作國家鎮
雲霞五色三津浦
星斗千年七社神
湖水勝麗空淨月
山櫻寂寞自過春
好風美景非無意
吾亦東西南北人

羅山子

千載
おなじ
うたよの
民ま
おなじ
あるまた
墨染の袖

慈園

植ゑ置し日に相撲繁茂しけりえ亀の兵火に焼しる所十有九年経て此樹
忽ち芽出て再生せり山門是より再興し故に後鑑の樹と謂へし○當院小睿和
僧都の夢に唐の法華経一巻部精誦あり時
釋迦普賢の尊像忽然として壇上に顕と感見そなふ

無動寺

或ハ無幢寺に作る
山所三坊今十三坊を
相應和尚の住せり深厚の皇后を霊鬼の障碍あり時相應和尚此不動
尊に祈りまつり日夜経をよして霊鬼退散す故に深厚皇后より此所を造立あり
慈鎮和尚行のひし天台の学徒あり当院のうへ墳墓あり又本社の祖神なり
山王七社の中客人宮ハ
山谷の守護神なり
鳥の山ゑ明の月はめくりあて和ゑ松の梢ゑをとし　慈鎮

大乗院

不動堂

弁財天

竹生島の白蛇と化して帰向あり宮のうしろふ
弘法大師の作なり南光坊
弘法の為に宮に祈誓あり
雲母坂不動堂　本尊不動明王は傳教大師の作なり
寺の額は石川丞の筆なり

當山名勝

四明嶽　叡岳　第一の峯雲母坂より登りて石小経あり空に石佛を安置す果て城近に八
幡宮あり頂上より北晴の日は西海の波涛幽に見ゆ
蒲土混論辻　出現の地なり北黒堂東へ下りて四辻あり三塔講堂東へ下りて四
東谷より坂本へ下る宝地坊證真の旧跡
花王院あり此の根本中堂の系孫なり　登天石　東塔は南谷遺教坊の門あり
法性坊なる者伝正の旧跡

ある菅神山石仮踏く常光坊山さるの前い絶景にして中秋の月住坊と二ツ子坂
登天しさまへ楓多くありて紅葉の時も眺望あり
戒壇院の後より青龍石西塔千手院の六嶽より天嶽あり龍の口をなれとる欣
右へ山おろ至さい人多く死と千る院の辞記僧正山の頭小座して
一七日加持しの人い怠惰しして黒雲嶽いと谷長勤
岩石くけ敬しえまり学ぶ三尊石優ゑ人四名三ツ
ありし所五百羅漢石道より西のぐ分の石貴神阿字休息峰路の傍
魔塚念人
あり北頭四峯れ行者釋迦多寶佛さまと山塚近つの横と西ハ八幡の宮八幡如山
王城加持修行の所と
又小比叡いい横川へ行花の方山のま横小大嶽あり寒嵐嶽華表岡より西乃高
神代ゑ白髭明神釣を垂し所うり
華表岡又不二門ゑ上ゑ阿弥陀峯多井の下ゑ三て西を臨で二峯あり昔
横川の分れより都仏陀来迎仏様ゑ所と
又峯城弥陀路のりく石塊を踏小経小あり相應和尚ゑ道仏通りし時
ともいうり蟻塚又雨頻ゑ激て前弥仏崩陽ゑ山蟻塚萬年りく昔時ゑ
を開て往来仏うしむ和尚異のそひを竜池又未池しも慈恵大師結界して
きしてゑ所ゑ其を成象て儀塚と号て龍神仏暦居もしゑ今も雨ゑ
附いそに祈ゑそ護法石中堂の東の如法水中堂の明伝井と独鈷水又寂静水慈恵大師蛮国の水茅渟院
のうち玄掛石和労堂より八王まに五男ゑ女降石ゑ所に樺生谷横川より八王子
にあり小経にあり
戒心谷飯室ゑ定家卿墓横川へ登る道のりくゑ山あり俗云宝系卿ゑ山ゑ
登臨しゑ所に閑寂ゑ仏堂しの人石小塔あり
踏たかも忘れ
ゑ山の上ゑ山のたのり

定家

延暦寺一乗止観院ハ本朝五岳の其一ツ也て王城鬼門ゑ当れ山ゑ
峰ゑも號をくゑ山ゑ日枝山ゑ比叡山ゑ日枝山ゑ
大師と敬慮仏等し帝都鎮護して根本中堂仏建営しゑ
敬心ゑ別名ゑ我立仏畏怖驚峯合顕
新ゑ敬心中堂建立の
阿耨多羅三藐三菩提の佛達我立仏冥加ゑ
愛宕山の一名ゑ
捨ゑ
我慢のゑ山ゑ
傳教大師
東塔
二坊小谷十二坊西谷十一坊南谷ゑ十
止観院と號と西塔横川を合て三塔と
東塔の東谷小十一坊西谷ゑ十一坊南谷ゑ十
根本中堂本尊ゑ薬師仏民基一乗戒壇堂釋迦文殊弥勒を安置ゑ
仏教ゑ大師ゑ
唐のゑ漢ゑの法基ゑの土坂文殊楼五仏ゑ文殊菩薩仏安置ゑ
荷塔してゑ成壇下ゑ壇ゑ仏草大師入
梵天帝釈文殊を安置ゑ
大会執行のゑ仏勅使来向の堂ゑ前唐院願堂ゑ大師乃千手堂を安置ゑ
山王院者山王社ゑ大師の本房ゑ向の堂ゑ千手井千日参籠ゑ
山王ゑ相圓清盛熱病の附ゑ
名ゑ平相圓清盛熱病の地
仏ゑ仏石仏ゑ仏ゑ
浄土院俗教大師の廟堂之宝塔ゑ號を俗横ハ三津氏江州志賀郡の人也

西塔　寶幢院と號を西塔の東谷五九坊南谷五十坊坊を澤土院とかりて谷川を堺とす

法華堂　本尊は普賢　轉法輪堂　本尊は釋迦文殊四天王永和元年　常行堂　阿弥陀佛を安置す寛平五年　椿堂　如意輪観音安置す山門建立以前の堂と伝て勝地を求て此本尊を安置す椿の木を伐て造立す　寶幢院　惠亮和尚の開基なり　相輪樓　王城の東北にあり本尊は釋迦文殊四天王　黒谷　法然上人の新建　普龍寺　十一面観音澤名居士成

慈覚大師の建立なり後に荒廃及び今小堂あり傳教大師の銘あり俗に鬼門柱と云て三つ　寛平の比　宣旨を蒙て法然上人と新に行を本像の彫ふ黒谷と云

横川　楞厳院と號を十四坊あり

中堂　本尊聖観音慈覚大師の作　慈恵大師廟　釋良源と云て永観二年正月三日入寂　四季講堂　五部大乗　観音堂　華厳三昧

脇士は毘沙門不動なり

大師堂　村上天皇の御願弥勒如意輪不動の三王を安置す　惠心和尚廟　横川小聖と号す九條殿

惠心僧都の人所之本尊阿弥陀佛

惠心の作の観音安置す　楞厳院　惠心僧都の人所之本尊阿弥陀佛

惠心の作の観音安置す　飯室　横川の別所之寶蔵寺　安楽院

明の和尚禅師　拔足して隨喜し報酬の

茶良坂　横川より坂本へ下る道なり　丹生明神　向の坂　水飯　西坂の中途にあり　法華堂の阿弥陀仏の上茶所　唐崎　今は山崩て湖なり

唐崎　たきの上の滝の名上年は古り老木の花筋　忠岑

拾遺　中納言敦忠の西坂本の山荘の滝津瀬人の心乃人もとる　伊勢

古今　ひえのやまのふもとに住て侍りける時　貫之

玉葉　西坂折る立松の岑晴て　前大僧正慈恵

拾遺　ひえの山に二月の末に花をみて　法橋性憲

新勅　大嶽れて吹風小雲晴て月の山月もくもりぬ　慈圓

風雅　二の岑二の乃坂をくべ来て我立松を名こそ　慈順

日吉山王社ハ比叡山ニ鎮ル守護神ナリ東坂本ニわり本社七座攝社十四座

凡此一社ヨリ例祭四月中申日

大宮　大己貴命　本地釋迦　二宮　國常立尊　藥師　聖真子　正哉吾勝尊　阿弥陀　八王子　國狹槌尊　千手観音

客人　伊弉冊尊　本地聖観音　十禪師　瓔珞菩薩　地藏　三宮　瓔珞菩薩　普賢　以上七社

下八王子宮　聖女　惡王子　大竈　天御中主尊　虛空藏　王子宮　建御名方尊　文殊　早尾　不動　大行事　高皇産靈尊　毘沙門　下照姫　如意輪　新行事　鴨津姫　吉祥天　牛尊　八王子の内　大威德　小禪師　孫勒菩薩　奥津彦命　愛染　岩瀧　猪熊姫命　布袋天　仲哀天皇　聖観音　氣比　劔宮　不動　奥津彦命　金剛夜叉　大日　竈殿　以上十四社

若宮　聖真子宮に同殿　國常立尊　比叡山　護國　二条院勅願之　別當社　唐法花神社　大宮出現の地

後拾遺

やつこゝろ　ゆえはてゝなりにしの　西のをゝ井れ　ゆのよの月　井良仙

日吉社ニ　ゆきて　ゆく　ゆ　ゆ　ゆ